青鞜

六月號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四月號目次

婦人問題に對する科學の態度（飜譯）（一）山田わか譯

ある晩のこと（小說）（八）小林かつ

懺悔の心より（感想）（一九）生田花世

寂（詩）（二九）管原初

處女作（長篇小說）（三七）千原代志

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

習作（對話）（六〇）原田皐月
東鄕ペン（感想）（七三）岡田八千代
最近の感想二つ（九九）野枝
折にふれて（一一一）岡田ゆき
淋しき心（一一五）山ノ井みね子
編輯室より（一二三）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人問題に對する科學の態度——山田わか譯

——ウォード氏著ダイナミックソシオロジーより——

最も進步した社會は近時婦人の狀態を改善向上せしむる運動に著手して居るが、其れは未だ〱淺薄なものである事は明かである。凡ての進步的運動に共通で、此運動も、亦、未だ、唯無責任な人々に擁護されて居るので、多くの人は世の譏謗を恐れて空しく沈默を守つて居ると云ふ時期にあるのである。そして其の必然な結果は、此の運動者の中に多くの狂信者と野師を見ねばならぬのである。其れは未だ嘲笑の時期を脫して眞面目な議論に入ると云ふ迄に進んで居ないのである。其れは未だ全く感情に制せられて居るので道理の支配を少しも受けて居ないのである。

こう云ふ狀態にあるのだから、此の運動は大いに科學の力を借りなければならぬ。そして科學者は、殊に社會の現像を、正當な科學上の材料と認めて居る人々は、かくの如き進步的運動に、其の基礎となるべき事實及び根本原理を供給し、以て此の運動を尊敬に價する重要な位置に押し進めねばならぬ。同時に其の數多の誤想を正し、其の合理的な實行的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な流路へ導かねばならぬ。

だが、此の目的を完成しやうとつとめた二三の眞の哲學者は左の事實を發見して失望しなければならなかつた。則ち、一般の科學者が彼等の立脚點迄進んで來て居なかつた事、及び、他のあらゆる社會進歩に付いては熱心な左祖者も兩性の關係に付いては、今日の狀態を脫して完全の域に達し得るものとは信じて居ない事を發見したのである。

殊に此の關係に於ての現在の狀態が社會學よりも遙かに單純な科學に擁護されて居る事は社會のために大なる不幸である。たとへば生物學上の或る事實を引證して、現在の男女の關係は、人間以下の動物界の雌雄の關係に類似して居るから、此れは自然の狀態であると證明しやうとして居るのである。

そして其の主張はこうである。大抵の哺乳動物の雌は多くの點に於て雄に劣つて居る。そして其の作用にも自然相違がある。又鳥類及び他の下等動物なぞも雄は雌よりも遙かに美しく、大きく、利發である。そして其の子を養ひ保護するに附帶する煩しい仕事は皆雌の役である。と云ふ事實をあげて、此れは自然が其の心意をよく現したものである。何であれ自然である以上は其れが最善の狀態と云はねばならぬ。と。

しかも此れは大科學者の議論であるから其の勢力も亦盛大なものである。殊に此の議論

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を聽聞する群衆は、原則として、議論の前提の不合宜なぞを判斷する能力を具備して居ないものであるからして、かくの如き大家の說は其のまゝ受けいれて少しも疑はないのである。

けれども博物學から其れとは正反對な夥多の事實を集めて、そして前述の議論に對する說を提供しやうと思へば其れは容易い仕事である。實に生物學上の根本原理は、單に自然の心意に關して云ふならば、雄よりも雌が遙か重要な位置に置かれてある。そして此れは自然の心意が優越に現れて居る下級生物の全體を通じて夥しく示されて居る。たとへば植物界に其の一例をとれば、あの麻の如き、雄は弱小で短命で、覺束なき生存をやうやく續けて居るにも拘らず、雌は强大に繁茂して、雄が其の種を殘す役目を果すや否や、雄の場所に迄も侵害して行き、其れを枯死させてしまうと云ふ勢ひである。此れと同じ不等が、Thalicutrm dioicum. Antennaria planlaginifolia にも示されて居るし、又凡ての雌雄異株の植物にも此の傾きが現れて居る。

動物界に於ても自然が雌性を優大ならしめて居る例は澤山ある。其の下級界は哺乳動物や鳥類とは全くその雌雄の優劣を轉倒して居る。女皇蜂はどの點から見ても雄蜂に優れて居る。そして此の蜂族のうちの勞働者は勤勉な雌蜂である。蜘蛛に於ては此の相違が一層

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

甚しい。雌蜘蛛は雄の幾倍と云ふ大きさである。のみならず、雄にない美しい模樣を其の體につけて居る。或る一種の雄の存在の理由は唯雌を孕ますにあるやうである。何故なれば雄の此の役が終るや否や、雌は忽ち、其の小さき匹偶(つれあひ)を捕へ、貪り食つてしまうのである。此れは此の種の蜘蛛の殆んど習慣になつて居るやうである。なほ又 Sphaerularia Bombi の雌性は雄性の數千倍の大きさである。又多くの昆蟲の雄性の作用は唯生殖だけに限られてある事は擔輪（Rotifera）に迄研究を進めずとも明白な事實である。

有脊動物のうちにも、雌性が其の雄性に優れた構造及び作用を享有して居る例は少なくない。此れは魚類、水陸兩棲動物、及び鳥類の中に見る事である。アメリカの駝鳥の雄はその體軀こそ大きけれど、彼れは卵を温め、其れを孵化させ、そして幼鳥の重なる世話を、皆、するのである。エミュー（濠州に產する巨鳥）も、又、此の種族に屬する諸鳥も、アメリカの駝鳥と同じく幼鳥保育の任を皆雄性が持つて居るのである。鷹類の雌は羽毛こそ格別に美しくはないが體は確かに雄よりも大きく出來て居る。余の採集した沼地に產するノスリの雌は皆雄よりも長き事一寸餘であつた。

鳥類の中には、何れの點から見ても兩性平等なのが少なくない。けれども哺乳動物の中にはこの平等がめつたにない。が此の差違は其の原因を雌雄淘汰に歸する事が出來る。則

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ち熱狂した雄性が彼等の性的慾望の滿足を得んために彼等の個性を過度に發揮して奮爭した結果此の程度迄自然の目的を阻むだので、此れが自然の心意だなぞとは以ての外である。

丁度動物に於ける性的差違が從出物で、變則で、腦動作の勃起に歸すると同じやうに人類の性的差違も全く不自然なものである。のみならず其れが人間界に於ては一層はつきりと公言されてあるから其の不自然の度はます／＼高められるのである。殊に兩性の各々の義務に關してそうである。野蠻人であれ、文明人であれ、人間の兩性の作用の如きは動物界には見出されぬ事柄である。凡ての動物が雌雄平等に自然の刺戟に從つて活動して居る。野蠻狀態の人間が、其の兩性の生命を支へるに必要な凡ての勞働を女性に負はしむるやうな事も亦、文明社會の定論であるやうに、女性は彼女の凡ての時間を幼兒の養育に費し、男性は彼自身並びに彼女のために衣食を得ねばならぬと云ふやうな事は動物界には全くないのである。

故に、人間界と動物界との間には並行線もなければ類似もないのである。そこで余は此の科學から剏り出した、尤もらしい假說を熟思する前に、其の事實は皆過誤である事を主張したいのである。なぜならば其の事實のうちには自然の目的は何であるかゞ現示されて居ないのみならず、むしろ、（もし自然の目的があるとしたなら）其の最高な目的なる生

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

殖に關して云ふならば、此の女性の優越な點が減少すれば、それだけ其の目的は破壞された事になるのである。

此の過誤な事實及び誤まつた前提からはなれても、此の人類の兩性の過度な不平等に付いての科學的僞議論は徹頭徹尾空虛な假說に土臺を置いた不健全なものである。實に此の、何であれ、自然に存在して居るものは、最上の狀態であると云ふ議論は其れが一般に信じられて居るだけ、それだけ有害なものである。

こう云ふ種類の科學的樂天主義は神學上の樂天主義よりも一層害の多いものである。「何であれ存在して居るものは存在の理由あり」と云ふ言葉には或る意義があるが、何であれ自然であるものは其れが最上であると確言するの理由はないのである。凡ての社會上の眞の進步は人爲的である。機械に於ける如く法律も制度も皆人爲的である。凡ての社會上物質上の進步はあらゆる舊狀態を變更し改良するにある。さもなければ其れは進步ではないのである。祖先を完全なものゝ模範として崇拜する國民は、諺の通りに、老衰して居て不活潑である。が、人類の起原を下級動物に置いて信じて居る近代の科學的人を吾人は何と評すべきであろうか? 彼等が其處から發出したと云ふ動物界を指示し、其れを標準として、今日の不完全な、最惡な社會關係を正當として主張する時に。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞理はこうである。もし彼等が今日の兩性の不平等を正當と證明するために、生物學或ひは他の科學の上に一ッの並行線を見出したとしても其れは此の社會狀態を改善する試みに何等の妨害とはならないのである。科學の實際應用は自然を改良するにある。凡ての力を、――社會の方をも含む――支配するのにある。其の目的は地球上に棲息する吾人の狀態を改善するにあるのだ。此れが本當の文明である。此れが凡てゞある。今日迄に文明は、あの粗雜な、浪費多き、無情な自然界を征服してあらゆる方面に人類を裨益して來た。其れにも拘らず、此の男女の關係のみは一考をも傾けられず、却つて野獸にも劣る狀態を續けて居る。此れは文明の恥辱ではあるまいか。實に人類秀德の標準として、社會制度の模範として、人が野獸界に歸らねばならぬとすれば、如何に頑冥でも、今日の科學的人としては大なる恥辱を感ずる筈である。

吾人は獅子でもなく、蜘蛛でもなく、亦穴居者でもなく、けれども文明人である事を說かねばならぬ。そして野獸の本能や、野蠻人のむら氣よりも、むしろ人たるの光榮、正義、平等を盛んならしむべき社會政策を求めねばならぬのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ある晩のこと——小林かつ

田舍でくらした半年にちかい月日のうちにはいやな事もありましたけれど、相應におもしろいめづらしい事もありました。

いまでもなにかの話の拍子に出るのは、活動寫眞を見に行つた、ある晩のことなのでございます。

そのじぶんは冬ももうだいぶ身にしみじみと深くなつてきたころなのでした。

よく夜分になつてから風呂のうめ水なんかを汲みに裏へ出る事がございました。——そんな時には地もやがこまかく、息をつくやうにたちこめて、松の中に見る月がつめたくさへて、あたりがみやうに白く、白け渡つて見へるのでございました。寒い冬になつて了つた——一人でにそう思ふ程、大山颪のつめたい頃なのでした。

夜の空の暗さの上を、また一だんと暗い色にかぎられた山を見ては、よく、ちいさい時分きいた山のかみさまのおとぎ話のことなどを考へて立つてゐますと、もやのこい——ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るでつめたい水底（みなそこ）にじぶんのからだがしづんで行くやうなのでございます。そういふ夕方は、家の松林の下に見える海岸通のあきん人の店のあかりがほんとうにきれいなのでした。ちり一つたゝないやうな――すんだ水のやうにきれいな空氣の中に、きれいと云ふよりは淋しいとりつきのないやうに、ひやつこい色をして光つてゐました。

そういふじぶんによく、口笛をふいてかへつてくる繁次のすがたを見るのでございました。水の天をあるく人のやうに、ぼんやりとした形の線が、はつきり見えるまでにはなか〳〵でございました。

よく繁次は冬がすきだと申しました。けれどあたしは東京に居ても、あんまり冬はすかないのでございます。――冬になればはやく初夏のやうな時になればいゝと思つたり、夏になれば早く秋のふけた頃になつてくれゝばいゝと思ふやうな、あたしにはまつたく、いつが好きといゝきることが出來ないのでございます。――繁次がこの田舍をはなれたくないとまで思ふのにひきかへて、あたしはほんごうに冷淡でございました。せまいこの海岸にをこるさゝいな出來事――をもに人の上にをこる――そういふものゝ方がどんなにおもしろくおもつたかしれないのでした。

ある日の事でございました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『宿(しゆく)に活動があるんだよ』

繁次はかう云つてかへつて來た事がありました。

『活動、——おもしろいねえ』

龜さんは一番にあいづちをうちました。

『活動なんて、つまんないわ』

あたしは活動寫眞といふものをいやに毛ぎらいをしてゐるいつものくせからそう云ひました。

『とり屋にねびらがかゝつてたんだよ、』

とり屋といふのは家から海岸へ行く道の家なのでした。そこの家には下田ぶしを唄ふちいさな女の子がゐました。——

『ね、今夜いこう、みんなで』

『あゝ、いゝねえ』おぢいさんの興味はすつかりもう活動にかたむいてゐるのでした。

『ね、行こうよ、おちかはいやかい』

『え、——だつて活動はくらいものね』

『活動はくらくたつて、行きかへりは提灯をつけて行けばいゝやね』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

龜さんはむきになつてゐるのでした。繁次は繁次で、はじめて田舍の夜道をあるいてみるといふ好奇心から何でも行こうといふのでした。

宿へ出るには、長く雨がわに松のつゞいたところ池前にある別莊、それから梅林の多い家、そういふものゝつゞいた街道を長くあるかなければならないのでございました。そういふところを夜ふけて歩くといふ事がどんなにか繁次のものづきな氣をさそつたのでございました。

まもなく繁次は一りで宿へ行つて赤い錠前をかつてまゐりました。よく家を出るといふ時にならなくては、それから遊びに行くのだといふやうな氣のおこらないあたしはその晩に見る活動が、どんなものなのかといふ事もちつともかんがへないのでございました。けれど繁次は、もう今夜の番組の事などを考へてゐました。

丁度午後の散歩に出た時でした。

『有馬の猫なんだよ。――猫だけはつまんないね』

繁次はがつかりしてゐました。――その子供らしい樣子がふつとおかしくあたしは思ひました。とケレンものの活動をかうした田舍の小屋で見るといふ事がほんとうにおもしろ

く考へられてまゐりました。

『おいなり樣のわきの寄席ぢや女義太夫なんだけど、どつちにしようか』

『どつちだつて同じだわ』

繁次はかなりまよつてゐたやうでした。

それでもそれははねになつて、――まつくらに外がなつて、龜爺さんが提灯のあかりを松の間をちらほら見せて來た時、なんなくかたがつきました。

『いゝやね、活動の方がいゝやね』

うれしそうに、しんから樂しみさうなそのおぢいさんは顏面の肉をゆるましてそう云いました。

ほんとうに田舍の晩はめづらしいものでした。大空――かぎりもなくひくい大空といふ事を田舍に來てあたしははじめてそう云へるやうに思ふのでございました、――はよくはれてゐまた。ちりばめたやうに大星小星はまたゝいてをりました。暗い土と暗い空のはてと、そのくべつがにじんだやうな一文字をひいてゐるところ、それから白く月のかげのかゞやく松の木、――それらは東京の町に思いもおよばない靜かな、ありさまでございま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「よしよし、もうそちらは分つたから止めるとしやう、それではお前は今のお前をなほ才氣で自分を救つてゐると言つた人を憎むか」

「私は眞底から全身あげて人を憎むといふ事が出來ないのです、然しそれを言はれた時は確かに不愉快を感じました、其人が自分に對して理解のないのを惜いやうななさけないやうな氣にはなりました。それは其人が此頃の私が一心になつて書いたものを讀んで下さつたかと一月もたつて聞いた時、「失禮まだよみませんでした」と答へた程、少くも此頃の私には冷淡であるのに、私の根本をさういふ程度の視方位から評してあゝ言つたと言ふ事がよけいに厭な氣持を起させました。然しこれはまだ私の眞實が芽生えだからです、育つてゆくに從つて私はもつと深い廣い愛に人を受け入れる事が出來るだろうと思ひます、今はまだ出來ません、今は專心此芽をのびさせる爲に自分の内部に全力を灑ぐ時です。だから下手な打ち壞しをしないやうに私は今其人に逢ふのを避けてゐます、然し永久にかうだとは思ひません、其人も今自已を磨く事につとめてゐられます、ですから二つの芽がほんとの成長をとげた時神の愛に育てられた時、必ず再び握手が出來る事を信じてゐます、さうでない譯はないんですから、私は其人を部分々々に憎んだ事はあつたけれど根本から憎んではゐませんし一面には外の人に得られない親しみを持つてゐますから。お互にまだ赤ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

坊で（私の方が餘計に生れたばかりです）さうして又他にお互にまだ可成り傲慢でもありますから別れ〻〻になつてゐた方がいゝに違ひありません、どんなに性質が違つてゐやうとも唯一の愛に打たれる時其愛によつて握手が出來る譯ですから、眞はいつも大なる一つであるのですから。私は自分の爲にも亦其人の爲にも其日を心から待つてゐます、さうなつて來ると私はほんとに又外に多くの人を愛す事が出來るやうになりませう、つまり私の芽が育つて花が咲く時です、私は油斷なく祈りつゝどうか其日に進みたいものです、「柳は綠花は紅」……かうかうい ふ道を通らなければ眞實ではないと自分の型で人をはかるのは間違ひでせう美聲の人も惡聲の人も眞の義太夫の眞髓にふれるには品こそかはれ優劣のない苦勞をしなくてはならないと思ひますから」

「ではもう此問題ではお前には聞く事はない又何か問題が起つた時に話しに來やう」

「さうですか、何しろ私の考へはこれからです、私の歩みもこれからです、何も彼もこれからといふ氣がします、ではさようなら」

「さようなら、油斷なくつとめなさい！」

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Y様へ ―山田わか

Y様日頃のあなたの御主張には私達は深い同情をもつて居ました。又尊敬をして居ました。けれどひそかに恐れて居ました。室咲の姫百合が一度外の空氣にさらされたなら結果はどうあらう。直接な太陽の光線は强すぎはすまいか。ふきすさむ風にさいなまれて實を結ばぬさきに生氣が挫じかれはすまいか。あゝ、可惜名花を野に出して危險を冒すより、矢張り溫室の中であの純な色と香を保存して……なぞと、いつのまにか因循な考へが心の中に喰ひ込んで居る私達は思つて居たのでした。けれども此れは大へん失禮な事であつたのでした。老婆心のあまりに過ぎたものでした。あなたはもつと／＼强いお方でした。外界の何物にも打ち勝とうとなさる心の髓から、ほとばしり出る力を御見せになりました。先日、あなたの將來の生活についての御意見を伺つた時は實に驚きました。又喜びました。室咲きだと思つた花は、そうではなく、嚴寒に堪へ、風雨を排して、凜々しく咲き誇つた梅の氣品を備へて居ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あの前私が『あなたには生活費をとらなければならないと云ふやうな事はないでせう』と申ましたのは、實に、あなたに對し又た本當の自分に對し（うその自分があつて、そいつがいつも出しやばりたがるので困ります）云ひわけの出來ない、うはツつらな、お世辭みたいなものでした。つまり、其の意味は富裕な御兩親の手から、又富裕な男の手へあなたが貰はれて御ゐでになる事と假定しての云ひぐさでした。口では何のかのと云ひながら、やッぱりあなたを綺麗なお人形のやうに心で扱つて居た罪はのがれられません。本當の私の心は、決して、どなたにでもそう云ふ身の振り方を望まないのです。たとへ小さくとも自分の足でしツかりと地上に立ち得る婦人を求めて止まないのです。

けれども人に頼らない、男によらないと云つても其れがすぐ結婚を排す事ではありません。勿論こんな事はとうに御承知でせうが實は其れに付いて一言申上たい事があるのです。此れも或は餘計な老婆心に終るかも知れませんがとにかく云はして見て下さい。

御兩親の懷を離れ、社會の一人として踏み出しなさる、第一步をお誤りにならなかつたあなたが何處迄も新時代の完全な婦人としての生活を建設なさる事を偏に祈るのです。私が、此處に、こと更にこう申上げるのは、あなたがどうも愛を輕視して御居でになるやうに思へてならないからです。周圍の人達があんまり人格を無視した結婚を強いたり又男の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

下等な慾を卑しむ結果、あなたは大切な純粋な愛をも逸しておしまひなさりはしないかと云ふ事を私は恐れて居ます。愛よりも先きに自營の方法をおたてになるのが正當な、新人のとるべき道には相違ないのですがあなたは其の方に計り力を入れすぎて御居でになりはしないかと危むのです。何と云ふても愛のない生活は片輪です。一生が滿足でありません。どうしても生涯をゆたかに潤す、深い岩間からこん〳〵と湧き出る清水のやうな、清い愛が必要です。某紙上で某氏は平塚さんの『處女の價値』を評して、そんな事を云つたら人間は皆禁慾主義を實行しなければならない、エンジエルには出來やうが人間には出來ない、と云ふやうな事を云つて居ましたが、此の人の考へは違つて居ます。男は放逸になれて居るからそんな事を云ふのです。又女に經濟上の獨立がないために、女が心にもない男の意に從ふので、多くの男は、女も彼等と同程度の烈しい性慾をもつて居るものと思ふのです。けれども女は男と違ひます。女の愛は生來精神的です。それで、私は、此處に女に附與された、神からの使命の、暗示があると思ひます。次代の國の力を其の懷に養ふ義務をもつ婦人は、男の性急な慾を斷然排して、たましいの承認する相手を待たねばなりません。又待つ事は困難ではありません。少なくとも精神的の愛を知らぬ男を相手とする程困難ではありません。多數の婦人に此の見識と、自覺があつて、始めて、放逸になれた、其の身の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

處置さへつかない憐れな男を矯め導き、彼等が社會に流がす罪惡を減ずる事が出來るのです。

話しが大へん外れてしまひました。もとへ歸りませう。そんなら私の云ふのはどんな愛かと云ふと、勿論愛の經驗は個々別々なものでせうが、此處で私が私の知り且つ信ずる一ツをお話しすれば、愛は一生をつらぬいて生きて居るやうな大きな愛は、一朝一夕にふいとまとまるものではないと申ます。愛は兩親の間に生れた嬰兒のやうなもので、其れは男の或ひは女の心得方一つで生かす事も殺す事も又立派に、エレン●ケイの好んで云ふGreat Love にも育てあげる事が出來るものです。そして其れを育てるに付いては男にも女にも健全な知識か必要です。知識がなくとも愛を全ふする人達もありませう。けれども其れは危いものです。情熱と云ふ火を焚いて居て、船を導く舵がなかッたら其の船の運命は危險です。其れでも、それが着く處へ着けば僥倖です。誠にそれはあてになりません。

それで、もと〳〵愛は育てなければならないものであるから、始めは生存力のごく弱い小さなものなので、ともすると育てそこなうかも知れません。或ひは見逃がしてしまうかも知れません。十七世紀の大哲スピノザの戀があんまり、じみで遠慮深かッたゝめに、對者なる婦人は其れをみとめる事が出來ずスピノザに失戀の一生を終らしめた事は永久の恨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みです。スピノザの精神的の愛を理解しないで豪商に嫁した此の婦人とあなたとはまるで立場が違ひますけれども、立派な愛の成立があるものを其れを失ふ結果、二個の人間の不幸に終る事及び社會のこうむる損失は結局同じです。

ですから、あなたが因襲のにごつた池を出て文明の本流に行かうとなさる時に此のあらゆるものをうるほし、生かす愛をお忘れにならぬやう御すめしたいのです。新婦人の先頭に立つて自營の道を開拓なさる、あなたがやがては賢明な母、新しい母の標本になつて頂きたいのです。

要するに經濟上の獨立を獲得なさつてから Gift of love をも御受けになる事及び一旦自分のものとなさつた愛は、知識を加へてはぐゝみ導く必要のある事を申上げたかつたのです。

けれどもY様あなたが進んで行かうとなさる道には幾多の大きな障害物がありませう。が其れをのりこして直進するのが思想の轉向期に生きる私達の仕事です。オイケンの力說する Mere human level を脫した精神的新人の仕事です。生きがいのある生活です。私は二十五の年に文字を習ひ始め、三十の聲を聞いてから音樂に志しました。私は此等の Culture を出來るだけ自分に取り入れて、一生のうちに一度でも文明の本流にぶつかつて見

やうとして居ます。なるか、ならぬか、努力して見ます。

行ける處迄行つて見ます。あなたも此のあひだ青鞜誌上で努力の必要を叫んでお居でゝしたが全く人生の價値は努力です。一の努力と二の努力を重ねると其れは三になつて或る力が出來上がるのみならず、其處に Life が生れます。此のライフです。私は此ライフを感ずる時嬉しくて心身がふるへます。全世界に勝つたやうな氣がします。心が若やいで今から何でも出來るやうな氣分になります。

努力です。努力です。お互ひに努力して失はれた婦人の力を取り返し、婦人の正道に歸へらねばなりません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東郷ペン（完）

岡田八千代

私ほど道に無とんちやくな者はあるまい。それが道路でなくて何處かの何かの會場へ這入つても一寸歸り道が分らなくなつてしまふ事が度々ある、いつかも讀賣新聞の三階へ銀會を見に行つた時、もう出やうと思つて奥の室から引返して來た時、一寸會員の方に聲を掛けられたら、もう階段を下りるのか廊下へ出るのか眞直ぐに行くのかゞ分らなくなつてしまつてまごついた事がある。學校に行く時分、私は東京に育つた癖に少しも道を知らず、田舎から出て來る人にいつでも下町へゆく時は連れて行つて貰つたものであつた。

京橋から新橋までの煉瓦通りに目につく店で越後屋、三枝、木村屋、美濃常、關口、龜屋、菊屋、明治屋などのあるのは知れてゐるけれど、さてその中のどれが尾張町からどつちにあると聞かれるともう分からない、此頃やつと新橋の方から行つて尾張町の一ツ手前の横町に風月のある事は覺えたけれど、田中屋はと云はれるともう駄目になる。

柳が奇麗だ。只色として見ると淺い生な厭な色なのだが枝についてなびいてゐるのを見るとほんとに奇麗だ、きれいできれい

で堪らないほどきれいだ。せめて此月中だけでも此位の葉の大きさでたよやかであつたら好いと思ふ。（四、四、五）

水も灯も夕ぐれが一番美しい。

「草枕」の觀海寺の和尙が一寸電車に乘つて見たいと云ふ處を讀んだら、私が始めて電車を見に行つた時の事を思ひ出した。電車が出來てから暫くたつても私には電車に乘る用がないので見た事が無かつた。それで折々私が人も馬もなくて動く車といふのはどんなものだらうと云ひ〳〵したので、兄がでは見せてやらうと云つて或る日私を連れ出して吳れた。多分今の日比谷邊であつたらうと思ふ、何でも堀端の處で私は始めて電車と云ふものをポカンとして見て居た。その時三四人の洋服を着た人が通つたがその中の一人が兄の名を呼んだ。そして何かその人が聞くと兄が大きな聲で「いゝえ、今日は妹に電車を見せに來たんです」と答えてゐた。するとその人が優しく笑つて私の顏を見た。後で聞くとそれが亡くなつた國木田獨步さんであつた。

逢つてしまへば大ていな幻影はこわされた。と云つて、わざと逢はずにゐられるほど豪くないのだから困る。

どうせ打つかつた以上は何處までもぶつ

かつて來て貰ひ度い、それだのに一寸ッついて泥が出たからと云つてどせうを取らずに歸る人はどせうも隱れた張合が無いだらうと思ふ。

萬世橋停車場の二階の日蘭國交展覽會を見に行つた。第一室が一番に見ごたへがあつた。其日時間を澤山持つて居なかつたのと、ものを見る眼の力をよく養つてゐない私には幾つかの見落しはあつたらうと思ふが、それでも三百年前の平戸の景を銅版にしたもの、文晁書樂翁公題歌の蒸氣船の木版、高野長英の「夢ものがたり」阿部伊勢守の洋式畫、元祿享保年間阿蘭陀から渡來したと云ふ更沙、などが大變に面白かつた。

第二室で「動き石」と云ふのを見てゐると黑い洋服を着た係りらしい若い人が出て來て「持つて御覽なさい」と親しげに出してくれたので遠慮するのも惡いやうに思つて恐々手に取つて見た。見た目よりも大變に重いが大變に輕いのかと思つたのだが別段の事もないので考へてゐると、又その人が「振つて御覽なさい」と云つた。そこで私は又恐々振つて見るとゴトン〳〵と云ふ幽かな音がしてその石が手に持つた處から先がゆら〳〵と搖れた。私には始めてそれでその人が持たして呉れた好意が分つて嬉しかつた。そして安心した。見た處は薄赤い色をして如何にも堅たさうに見えてゐながら、本の方を手に握つて輕々前後へ搖ると

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゴト〱と云ふ音がして二三分位づゝはたしかに前後へ搖れる。それで面白くなつたので、連のAにも持たして、「ね、動くでせう不思議だわねえ」と云つていつまでも動かして見る氣でゐたら、何時の間にか女監視が出て來て「おさわりになつては不可ません」と云つたので驚いて置いてしまつた。此室では外に爪哇の紋が日本のつの紋りと同じ樣で面白かつた。第三室では日本で阿蘭陀風が流行つた當時の看板に種々味のあるのがあつた。陶器、キリコなどにも見あかぬのがあつた。

太平洋書會を見に行く。上野は丁度彼岸が眞盛りである。人がうぢや〱してゐてほこりが立つてゐる。こんなにうぢや〱してゐる人がみんな好い衣服を着て居る。私見たいに銘仙に木綿の羽織を着てゐる人は無い。それでゐながら、少しも好いなりだと思ふ人はゐない。會場の中で一人、えび茶と黑との棒縞のお召に暗綠色の縮緬の羽織を着て、洗ひ髮をサラリと束髮に取り上げたさらりとした後姿を見た時は一寸嬉しかつた。しかしぢつと見てる中に直きに倦きが來る、このなりはどうしても小説中の人物か芝居の中に出て來る人物のなりで、ある所作を演り又字に書いては大變に好いのだが、實在の人物にしては深い味はひがなくなる、色は勝るが匂ひが無い。まア上野を歩いてる人の中でも大勢の事では

あり花時だから目につく人は澤山ある、けれ共、足袋を見てえり脚を見ると大ていな美人でも厭になるのが多い。ことに下駄はひどい。

道端の石に腰かけて縮緬の紋付を着た女が梨をかぢつて居た。この頃は猫もしやくしも紋付の羽織を着る、金のある人はも少し羽織に面白いものを着て貰ひ度い。

（四、四、八）

自分が達し度いと思ふ彼岸があるのは確かである。そしてその彼岸を見失なつてはならないとも思つてゐる、けれども、生きてる中にその彼岸に達してしまふのはおしいやうな氣がする。生きてる中に八分方歩いといて死んでからあとの二分をダレかに歩かして貰ひ度い。

しきりにこの頃船の生活と云ふ事が思はれてならない。あの廣い海の中の小さな船にただ二人、同じ魂ひの二人のみが、誰にも干渉されぬ美しい淋しい忙かしい危しい生活を送る事が出來たら嘸ぞ好からうと思ふ。

海が見たくて見たくて堪らなくなると、どこかしら海邊へ行く。けれどももう海邊へ來たのだと云ふ安心を得ると少しも海を見やうとは思はない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

海を見てゐると――ぢつと海を見てゐるとしまいにあの海の中に這入つてしまひ度くなつてしまふ。

帝劇へ行く、藝術座の興行で「その前夜」と「サメロ」と「飯」だ。「その前夜」が見たいと思つて行つたのだが、順序が狂つて「飯」が後になつたので「その前夜」のエレーネの中から見る事になつた。須磨子のエレーネは好い、この人は他の女優に欠けてゐる力がある、それが今此人の生命なのだ、だからその力が失くならない中にもつと勉强して貰ひ度い。この芝居の大詰でさん〲泣いて廊下へ出たら誰も泣いたやうな眼をした人がゐなかつたので大變に極りが惡くなつてしまつた。須磨子の「サロメ」はやつぱり强い處が好い。しかし、先の時とちつとも變りが無い、先の時と今度の時との間になんの研究をも認められない。加藤のヨカナーンは少し俗氣があつた。此お人はふだんの方が上品だ。田中のナラボスは中井の小性と柄があべこべなので小さい感じがした。しかしいつも生眞面目な處が嬉しい。（四、四、二六）

青山行の電車に乘ると隣りに腰かけた老爺さんが一圓札を出して往復切符を買はうとすると車掌はお釣りが無いとそつけなく云つた上「下りて下さい」と云つた。乘り合ひの人々に一圓の細かいのを持ち合せた

人が無いとも限らない、それだのを聞き合せてもやらずに下りてくれと云つたのがグッと癪にさわつたので直ぐ車掌の名を見るとR、Kと云ふのだ、そして車の番號は一九八の四谷鹽町行だ。お爺さんが細かいお金を持たずに電車に乘つたのも惡るいけれど、私にはそれよりも車掌の不親切が憎かつた。しかもその下りて呉れと云つた處は三聯隊裏の人家の少ない處であつた。私は氣の毒になつたので少し差出がましいと思つたけれど私の切符の「歸り」をそのお爺さんにやつた、お爺さんは大變に喜んで、再び「下りて下さい」と云つた車掌の前に、「今頂いたから」と云つてその札を出した。車掌は默つてその札を切つた。その時車は丁度一丁目へ來たので私は乘替のために下りてしまつた。けれ共私は下りる迄はとう〳〵車掌の顏を見なかつた。そんな車掌の顏を覺えてゐて今度若し逢つた時その事を思ひ出すのが氣の毒だつたからだ。しかしやらうと思つてもいつもかう上手くは行くものぢやない。

同じ古物にもいろ〳〵ある、歌舞伎座へ行つてもあやめの聲を聞くと、なんとなく古風な芝居めいた好い氣持になる。けれど團八のを聞くと御念佛がとなへたくなる。

羽左衛門の足も、御所の五郎藏か何かで「うみの影かとおぞろきしが」と這入る時

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にはいくらむきだしになつても寒さうぢやないが、助六で出るとまだ寒さうに見える。はやくあれが寒さうでなくなると好いと思ふ。

雨の降る日に田村（俊子）さんの處へ行く、上野の山が青葉できれいだ。俊子さんはお召の横竪縞の袷にお召の羽織を着て荒い形の前かけをしめて、薔薇だの、チユーリツプだの、立藤だのなんだの一ぱい花のさしてある座敷の中に奇麗に白粉をつけて座つてゐた。お隣の室では深山樣を飾つた棚の前で四邊に一ぱいといしや刃物を置いて男の田村（松魚）さんが一生懸命に彫物をしてゐる。靜かな板びさしに若葉をすべる夏のはじめの雨がした〳〵と落ちてゐた。

幸ずしへ行かうと云ふので俊子さんと二人は雨の中を出かけた。山の中ばへ來るとそこの柵の中に鳥が澤山遊んでゐる。二人が思はず立留つて見てゐると通りがゝりの職人がビスケツトを投げてやつた。鳥は直ぐ恐れもせずに飛んで來てそれを食べた。職人はやがて行つてしまつた。二人はまだ立つて居た、俊子さんも私も間がよければ鳥を連れて歸りたさうな顏をしてゐる。

（四、五、一一）

書いてゐれば私相當な事はづる〳〵と書けて行く、けれども手拭はいつまでも手拭

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でとても蛇になりさうもない、けれ共それではお立合ひが迷惑なさる。處でもう此ペンも先が滅つて書きにくゝなつて來た。こゝらで一ッ取りかへませう。（終）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

松原より――齋賀琴

病みたまへばものさびしげなる師の君の春の海邊のそぞろあるきよ、

松原の春の夕べの寂しさよ病む師の君のおとろへしかげ、

おとろへてものも得云はぬ師の君をみとりてあれば春の雨ふる、

さわやかに海風吹けど師の君のいたつきいえぬ松林の家、

心よはく神をたのめり師の君のいたつきいえず春もくるれば、

松原をひとり過ぎ行くわがかげも春なればこそ寂しかるらむ、

砂原の松のしつくに青々とわが鬱憂の映る春かな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はるかなる海のあなたにほの〴〵と安房の山みゆ丘にのぼれば、
日たくれば松原深く分け入りてひそかにひとり菫をぞ採む、
一もとの濃むらさきのすみれなどわびしく咲ける山里なりき、
林間に群りとべる春の鳥かなしきまでに滑らかに鳴く、
夕來れば何とはなしにもの思ひ海をながむる松原の家、
磯近く里の子供らむれつとひざわめく如し月あかき夜、
汐みてばほの〴〵月もうかみいづ春の海邊のしづかなる夕、
松原の松の靑よりしみ〴〵と春のなげきの湧きいづるにか、
靑々と海のあなたに打かすむ山々こひし旅の夕べは、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

花咲けば春風吹けば何事もたのみ少なくうらがなしけれ、

いつしかと樹々は芽含めりいつしかにわが鬱憂も萠えいでにけり、

春なれば只かりそめの事がらも涙ぐましくなりはてにけり、

あめつちのくらきみどりをみつめつつ只泣かましきさつき夕ぐれ、

ほろ〳〵ともみぢの花のこぼれけり身にしむごとき春の夜風に、

もみぢばのあかく青きもかなしけれ忘れむとする愛のなげきに、

あぼ〳〵と波立つ海の只中にひとりしありてものを思はむ、

あめつちはくらくつめたし雨ふれば死ぬべく思ふさつきのたそがれ、

春の夜の淡き灯かげにひとりゐてモウパッサンをよみふけるかな、

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

獄中の女より男に——原田皐月

一

私には暗い〱日許り續いて居ます。もう幾日經つたのか忘れて了ひました。此處に斯うして居ると堪らなく世の中が戀しくなります。貴方の傍が……貴方の傍が……貴方はあのテーブルの上でお仕事をして被入るでせう?。一輪ざしの草花がもうぼろ〱に枯れたらうなんて昨夕も考へましたの。そして貴方は其ぼろ〱の花を矢張り捨てないで眺めて居て下さるんだと思つたりしてましたの。妙な事迄考へたんですよ。貴方がね、毎晩私のあのつぎだらけの寢卷を抱いて寢て被入るのだなんて。そして私の考へてる事が皆事實の樣な氣がするんですの。私にちやんとそれが見える樣な、私が知り拔いて確かな事實の樣な氣迄するんですの。恁麼手紙を書いたら貴方はお泣きになる? 泣いて下さいね。そして私が恁麼に苦しんで居る爲だけでも貴方は一生懸命貴方のお仕事をして下さいね。私はほんとうに心配して居ますの。貴方が此事の爲に動搖して苦しんで被入りはしないかと思つて。私の考は何が來ても動かないのですし、法律は法律の極め通り進行するでせうしなる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

様になるのですから少しも心配はないのですが、若し貴方が彼の時の約束に背いて私の苦痛を半分助け様なんて被入りはしないかとそれ許りが心配なのですの。離れて居ては貴方のお心迄が分らなくなつて了ふ。若し貴方が其麼お心持から又この暗い世界へ私と同じ様に身を沈めてお了ひになつたらそしたら貴方が死ぬ許りか私も死ぬのですもの。くどい様ですけど此度の事の責任は全部私に任せて下さいね。そして貴方はお仕事の方丈けを専心遣つて下さいね。私は貴方の事許りを考へて優しい女らしい事を並べたてゝ、只貴方を泣かすのではないんですの。いつか御相談しました様にさうして下されば貴方のお仕事の中で私も活きて行かれるんですもの。私を憐んで下さるならどうぞ貴方のお仕事を可愛がつて下さい。そして私の事も可愛がつて下さい。そして私の寢間着を抱いて下さい。私の着物でも私のお茶碗でも私のお箸でも私の櫛でも私の白粉でも私の私の何でもをキッスしてやつて下さい。あゝ私は此處に居てもそれが皆判ります。

貴方は世の中の嘲罵を浴びて被入るでせうね。墮胎女の情夫はあれだと。貴方はぢき其れが怎うした？　とそふ氣になつて力み返るんでせう？　さう思ふと私はふんと笑ひたくなります、何でもいゝ、二人を知つてるのは二人ですはね。二人ぢやない、二人はほんとに獨りなんですものね。私はほんとに嬉しいのです。毎日の尋問に疲れ切つた時でも私を

隅から隅迄知つてる人が今仕事をして居る。私は凡てを知られて居ると思ふと、世の中の人間が皆私に唾してもあゝ澤山だと思ふんですの。

二

裁判官は人類の滅亡も人道の破壊も考へない虚無黨以上の犯罪だと云つて卓を叩いて怒りましたの。私が裁判官の

「では何所迄も悪いと思はないのか」

と云ふ問ひに答へて

「悪かつたと思ひます。ほんとうに。然しそれは私が今迄姙娠した經驗がなかつた爲に其方に不注意だつたと云ふ事に對してなのです。私が凡ての點に於て未だ獨り前の母になる丈けの力がないのを承知し乍ら姙娠しない様に注意しなかつたと云ふ事が大いに悪かつたのでした」。

と云つた時にですの。私は裁判官が朱の様に怒つたので驚きました。丁度私は俯いて答へてゐましたのに卓を打つ音に驚愕りして顔を上げると法官の顔が凄い様なんですの。私は恍と其顔を見てゐました。

「人命をみだりに亡ぼす事を考へないか」

と怒鳴りましたの。私も少し皮肉でしたけど

「女は月々澤山な卵細胞を捨てゝゐます。受胎したと云ふ丈けではまた生命も人格も感じ得ません。全く母體の小さな附屬物としか思はれないのですから。本能的な愛などは猶さら感じ得ませんでした。そして私は自分の腕一本切つて罪となつた人を聞いた事がありません」

と云ひましたの。貴方は又皮肉やがとお笑ひになるでせう。私はまだをかしい事を云ひましたの。だつて實際滑稽な質問でせう?。

「同棲したら子供が出來ると云ふ事を知らなかつたか」

と云んですもの。

「知つてゐました」

と云つたら

「親となる資格がなければ何せ同棲した」

貴方は怎んな氣がして? 私はほんとにをかしかつたんですよ。人間の微妙な本能や感じ迄も數學的に割り出せと云つたつて其法官に出來ても私にや出來ないんですもの。そり

や自分の責任の持ち切れない事を不用意として了つたと云ふ事はほんどうに私達の落度だつたし、思慮の足りない事だつたのですけど、だからさうなつて了つた私として一番いゝ方法を取つたのぢやありませんか。自分の思慮が足りなかつたと云つて成行きに任せて置いて一層思慮の足りない結果に落す事が恐ろしいからそれを避けたのぢやありませんか。

私は法官の問ひが餘りをかしかつたので遂大きな聲で笑ひましたの。そして

「それを若し御存知なくてお聞きになりたいとなら私より造物主の方が知つてゐます」

と云つて了ひましたの。私は今考へてもをかしくて仕方がありません。恁麼返事をする被告が何處にあるでせう。貴方にもをかしいでせう。あつけに取られた樣な法官の顏を見たら急に氣の毒になりましたの。此處は命がけの眞面目許りの外這入られない席だのにと思ひましたら私ももう笑へなくなりました。それから眞面目な問答が續いたんですの。私が腕一本と胎兒と同じだと云つた事が許すまじき危險思想に響いて居るんですねえ。私は成るべくなら判つて貰ひたいと思つて隨分云ひました。

「何故胎兒が附屬物だ」

と云ふのに答へて私は

「腕は切り離しても單獨に何の用も些しの生命も持ちませんが胎兒は生命を持ち得ると云

ふ相違丈けはあります」

と一寸語を切ると大急ぎで此處を逃かしてはと樣に切込んで來樣としますから私も直語を續けましたの。

「後に生命を持ち得るからこそ恁うしなければならなかつたのです。何時迄經つても生命も人格も持たないものなら其儘にして置いても何の責任感も起らないのですが、私の體を離れると同時にもう他の主宰から離れた一箇の尊い人命人格を持ち得るのですから。然もそれ等を支配する能力――奥深く潛んだ其箇人獨特の能力――丈けを親が引出し育てて遣らなければならない責任があるのですから。然も必ず過まる事なしに引出し育てなければならないのですから非常な責任を感じないわけには參りませんのです。間違つたら遣り直せばいゝと云ふ事は自分の外用ひられない言葉ですもの」。

斯う云つて私は決して輕卒や自分勝手でない事も說きましたの。私は貴方とも口を聞かずに幾日も幾日も考へて居ましたでせう。それを皆話しましたの。

「兎に角自分が不用意の爲に斯うなつたのだから、姙娠して了つたのだから、私の出來る丈けの努力を生れる子に盡さう。それで足りない處は仕外のない事だから我慢して貰ふ。兎に角私は私の出來る丈けの力を產れる兒に向ければいゝのだ」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私が姙娠を知つた始めに斯う思つた事も話しましたの。すると法官はそれが正しいと云はぬ許りに幾度も幾度も合點きました。けれど私が又話を進めなかつた時はもう其麼氣色は見えませんでした。

三

私は斯う云ひましたの。

「始めはさう決心したのですけど、もう一歩考を進めた時、それは私には都合がいゝが產れて來るものには何にも關係のない事だと氣が付きました。親は始めから自分の繼承者を世に出すなんて事は少しも意識しないうちに子供を產みます。少くも私はさうでした。そして勿論子供から產んで吳れと賴まれた事もありません。そんな無意識のうちに不用意のうちに、尊い一箇の生命を無から有に提供する云ふ事は、然も其責任をまだ當然持ち得ないと自覺して居たとしたら、此れ程世の中に恐ろしい事があるでせうか。これが生命を單獨に形造つて胎外に出て了つてからならば、務めても出來ない不滿は涙を呑んでも我慢しなければならないでせうが、まだ其處まで單獨のものでなく母胎の命の中の一物であるうちに母が胎兒の幸福と信ずる信念通りにこれを左右する事は母の權內にあつていゝ事と思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひます。母が死ねば當然胎兒も死ぬ運命ですし、猶母の命を助ける爲に胎兒を殺す事は公に許されてる事の樣に承知して居ました。私は母の爲に兒を捨てたのではなく、兒の爲に兒を捨てたのでした。自分一己の事なら間違つたら遣り直す事も出來ます。粉粹され樣と千死なりとそれは自分の事ですが、縱へ子供でも一度び胎外へ出てはもう親とは別の箇體です。然も或時期までの全責任は産んだ、設けた、親にある筈です。其期間親は當前凡ての責任を持ち得なければなりません。さう考へて來て私は私の責任觀念を果すには係うする外に道がなかつたのです。これが私として採るべき唯一の道だと思つたのです。只それ丈けでした。其外何にも考へませんでした」

私はこんな意味の事を云ひましたの。一生懸命でね。判つて貰はなくともいゝから云ふ丈けは云はうと思ひましてね。云つて了つたら私の目から又無暗に涙が流れました。貴方にお話した時も私は矢鱈と泣きましたね。自分の口へまだ出て來ない言葉に先から感激して涙の方が先に出て來た樣な風にね。今度もさうなんです。私は語を切ると涙がはら〳〵と落ちましたの。悲しい涙でも口惜しい涙でもそんな意味のある涙ではないのです。私の聲の一ツ〳〵の響が涙管を震はして涙の玉を振り落す樣に只々はら〳〵こぼれるんですの。

其時私は

「實に怖ろしいッ」

と云ふ法官の聲を聞きました。

私は一日中變化と云つては殆ど三度の食事を運ばれる時丈けです。あとは終日灰色の世界でこの時間を次ぎの時間の區別のつかない時の中にゐます。其麼中で間斷なく働いてるものは血と頭丈けです。ね、貴方は私が毎日壁を熟視め乍ら悦つと考へてる姿を考へられるでせう。ほんとに私は考の中に埋つて居ますの。そして考へ出しても私は法官の前で云つた私の考の何處にも否點を見出しません。私はほんとに小さい愛情の虜にならずに了つた事を考へて居ます。

私達は私達の今出來る丈けの働きをして居ますのね。二人はほんとに働く事が休息の樣に働ける丈け働いて居ますはね。それでも私達はよく食べる物がなくなりました。一日に一度外切餅が食べられない日もありました。暑くなつても薄い着物がなくて仕方がないので貴方が一日裸體で床へ這入つて被入る間に大急ぎで洗つて張つて縫ひ直した事があつたでせう。夜半までかゝつてね。私と貴方なら怎んなにしても生きられますはね。然し私は勝手に産んだ兒に迄怎那生活を強ひる權利はありません。思想上からだつてさうです。私の廻りには大勢のお母さんと大勢のお父さんが居るでせう。私は其中の一人にも滿足して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

居ません。私は彼等の樣に凡ての點に貧弱で兒に見える度强を持して居ませんもの。と云つて私は一度も私の兩親に不平や不滿を抱いた事はありませんけど、それは兒の方の側の事で親の云云する事ではありません。親は親として滿足出來なければ親にならない外、外に道がありまんもの。然も私は親になりかけた時に氣が付いたのです。隨分々々迂遠な事でした。然し親になつて了つてからでなかつたのがまだしもの幸でした。

法官は虛無黨以上の危險思想だと云ひました。

「實に恐ろしい。實に危險だ。罪惡以上だ」

と云ひました。私の身は怎うなるか分りません。法官は「人類の滅亡だ」と云ふ事を繰返しました。そして「其麼思想を口實にして他に之れを見做ふものがあつたら罪惡は罪惡を產むではないか」と云ひました。人間が自分の問題を考究する時人類だの他人だのと考を散慢に擴げて居られるものと思つて居るのでせうか。私は即坐に

「人の事は人の事です。人類があつてから私があるのではありません」

と打突ける樣に云ひましたの。そしたら

「それでは何處までも犯罪だと云ふ事を知らないで行つたと云ふのか」

斯んな愚にも付かない尋問をするのです。私は「刑法と善惡とは別問題です。然し刑法

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に觸れゝば罪人だと云ふ事は知つて居ました。そして私の行爲が刑法に觸れてる事も知つて居ました」

と答へましたの。すると何故自首しなかつたと云ふのでせう？

「罪を認めて居るものは法律で私ではなかつたからです」

と云ひますとね、法官もゑらい事を云ひましてよ、此言葉丈けには感心しました。

「法官が知らなくとも法律に觸れてる事實を怎うする？」

と云ふのです。實際さうです。知つても知らなくとも事實は事實ですものね。其時私は

「それは法官の御手腕に任せます。私には只だ法律より私の信念の方が確かなのですから私自身では私の信念に動く外仕方がありません。然し今度は法律が私の方へ働きかけて來る時、事はそちのお話になります」

と云ひましたの。

私の判決は怎うなるか分りません。怎うなるか……けれど私の信念には少しも動搖がないのですから。それに私の行つた事實にも變りはないのですから。貴方は何にも悲しまないで下さるでせう？　そして一生懸命お仕事をして下さい。私の分も。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四

今日は頻りに宅の部屋の樣子が目に見えます。私が居なくなつた日から貴方は部屋を掃いた事がないでせうね。床も敷きつぱなしでせうね。あの古くなつた掛布團はまたもう綿がはみ出したでせうね。縫ふとは切れ縫ふとは切れしてましたもの。貴方は今に綿丈けになつた布團を掛けなければならなくなるでせう屹度。それでも悲しまないでね。

何だか私は今頃貴方が冷い御飯に水をかけてお鹽をかけて、埃りだらけの布團の隅に距つて食べて被入る樣な氣がしてなりません。さうですか？　私は見たい。私の机の抽斗の中に紙に包んだ鹽豌豆が少しあつたのを貴方はお見つけになつたかしら。若しまだだつたらもう干枯らびて了つたでせう。

又くどく云ふ樣ですけど私の事をお考へになつたらお仕事丈けをして頂戴ね。二人が葬られて了ふ樣な事があつたら私はそれこそお恨みしますから。それが私には心配で〳〵堪らないんですの。どうかすると貴方が絶望してこの暗い世界へ飛び込んで被入りはしないかともう恐ろしくて堪らない事があるのです。私の知らない間に貴方も此處へ來て被入る樣な氣さへする事がありますの。どうぞね無駄にならない樣にしませうね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あ、今ね貴方の下駄が片方踏み石の下へ引繰り返へつてるのが見えます。一つは格子の側の處へ飛んで貼り柾がむけて來ましたね。（完）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青疊　　五明倭文

一

電報を受け取つた時の私の驚きはまあどんなでしたろう！　エミと亂暴な透寫書きの二字の先づ私の眼を射た時、何か怖しい宣告でも受けるかのように、封を破ろうとして私の手は幾度も戰きました。そして私の胸は明かに自分の耳へ聞える程、高く激しく動悸が打つたのでした。ケフクニヘエクイサイアトと許り、私は戰く手を組んで辛く胸の動悸を沈めるようにして考へました。何しに歸つたのだろう、郷里に何か凶事が有つたのではないか知ら、歸つた切りもう東京へは出て來ないのぢやないだうか、と思は千々に亂れて胸は不安に波打つのみでした。

暗い方へと流れて行く案じを、いくら打ち消そうと努めても、逆へば逆ふ程いよ〳〵怖しい淵へ押しやられるようで、遂に私は悒として居られなくなつたので、帽も冠らず其まゝ和歌の浦の方へ行つて、男波女波の打ち寄する邊りをさすらひました。けれどもそれは反つて仇でした。

大森の樂しかつた一日、隅田川邊の嬉しかつた夜狂などの、どうしても搔き消すことも可能ない過去の記憶は、今更のように腦の中をかけ廻つて、私は二百餘里も隔てゝゐるあなたの幻像を慕つて悶える胸に熱い〳〵淚を灑ぐ許りでした。

先月の初旬、新橋で私を送つて下すつて、折り能く誰も居なかつた婦人待合室で强い握手をし乍ら、

「來月になつたら直ぐ歸つてね、屹度よ」と云はれた言葉は、植え付けられたように根强く今も尙耳の底に殘つて、夜半の枕に通ふ松風の音もそれかと思はれる程です。私の手に殘つたあなたの餘熱——あなたと私の最後の——暫しの別れの——熱と熱との交觸——は全身に漲る若い血潮を沸ぎりたゝせて、朝も晝も夜も絕えず私を焦ら〳〵させるのです、そふ云ふ時、私はせめてとの思ひ遣りに右の手を唇へ持つて行き、それを左の手で緊と抑えては、いつ迄も〳〵接吻するのです。

寢床へ這入つてから腦みに苦しんで眠れない時など、克く慿ふして居る中に昂ぶつた神經もいつか落ち付いて、知らず〳〵眠りにつくこともあるのでした。

枝美さん——と呼ぶのを許して下さい——私は唯每日慿ふして悶えたり苦しんだりしてるのです、あなたの上許りを思つて。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

電報が來てから今日でもう五日になります。イサイアトつて一體どうしたのでせう？　なぜ直ぐ音信を下さらないんです、古い言草ではありますが一日千秋の思をして唯々手紙の來るのを待つてますのに。

若しやS君が歸つたのぢやありまんか？　S君の事に就いては――前からも云つてましたように――私は何にも考へ度くない、否、Sと云ふ名さへ全然思ひ出し度くないのです。こんな事を云へば屹度あなたは、弱い男――何の信仰も持たない――と蔑まれるかも知れませんが、どう云ふものか私は只Sと云ふ名が頭へ閃いた丈でも、私の總べては打ち壞されて了ふような氣がするのです。

嫉妬からでせうか？　それが感情に支配され安い肉の塊なんですもの、時としてそうした念に胸を攪亂されないとは云はれますまいけれ共、私は人を呪ふ炎の、より多く自分自身の靈と肉とを犧牲に供さねばならぬ愚さを知つてます。

それとも罪の故でせうか？　眞實な愛の歡喜を受くるのがなぜ罪になりませふ。鉛のように冷たいかたくなゝ習慣と云ふ型に捉はれて、自分を僞り人を欺いてゐる世なればこそ罪とも惡とも云ふのです。人は只自分で紡いだ虛僞と云ふ如何にも美しく見える糸のために眞我の自由を縛つてゐるのです。それは丁度蜘蛛が自分で張つた網にかゝつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

苦しんでるようなものですからね。そんな糸を斷ちそんな型を破つて眞の我に復るのがどうして罪惡と云はれませう？　ですから人の覗て惡と云ひ罪とも呼ぶ、それは總べて假りの裝ひを有つた眞の善ではありますまいか。

大森でのあの夜、燃ゆるような思に互に息を喘ませて幾分間の力を罩めた抱擁の後、わなゝく身を倚も私の胸に凭せてあなたは、「何もかも犧牲にして唯二人の愛に生きたい」つて、朝の葉に置く露のような淨い涙に、熱い私の唇を濕ほして下すつた。私は二十五年の生涯に於いて、あの時位ひ深刻な、そして響の强い共鳴を感じたことはありませんでした。私はあなたを抱いたあのまゝ永久に――出來得るならば――燃ゆる情念を擅にして居たかつたのでした。――

所々字判じするように考へたり、解らないで省いたりして漸く玆迄讀んだお菊は、四角い大きな机の中央を切つて細長い爐にした飯臺の廻りに座つて、熱心に聞いてゐた母親や姉のお豐や從弟の欣造やの驚異に張つた顏を見廻し、

「男はまだ若いんだなア、二十五だつて書いてありすぜ――大森つて何處だすや欣さん？」

と、髮を長く分けて鐵縁の近眼鏡をかけてる若い欣造に訊いた。

「大森つてね品川の直ぐ傍で海岸だから夏なんざアひどく人が行くんです――まア多くは

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

海水浴にですね、それで冬だつて春だつて行く人もありまさあ、藝者なんぞ連れてね、寒い時は鹽湯や砂風呂なんてうのがあるし……まあみんな料理屋で待合を兼ねたようなのばかりですからね、人目を避けて一日や二日遊びにゆくにや實際良い所ですよ」

欣造は笑ひながら得意そうにい〻加減の説明をした。

「それから此所に――君となんのことだすや?」

と云つて、お菊はS君と云ふ所を指した。

「S君てうんでせふ」、欣造はにやくヽしてゐる。

「S君てなんのことえや?」、お豊が口をだした。

「S君と云ふのはね、兄さん――精――のこつてすよ、どれお見せなさい」

欣造はお菊から手紙を取つて所々默讀して居た。三人は互に顔を見合せて暫らく沈默して居たが、

「欣や、も一度初めから克くわかるように讀んでお呉れや、お菊の讀んだんぢや、己に何んだか判然わからねえから……」

と、母親は其廣い額に暗い陰を寄せてかふ云つたので、欣造は最初から丁寧に讀みなほした。そして折々註釋を加へた。三人は初めの時のように沈と聞いてゐたが、併し亂暴なべ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ンの走りがきは、欣造をして時々考へさした。彼が鳥渡默つた時、

「電報つてどふしたんだなあ？」

と、母親は可傷しい目をして訊いた。

電報と云へば非常の事變――それも多くは凶變――でも突發した塲合の外は滅多にうたないものと思つて居る――邊鄙な田舍に生れてそこにのみ六十餘年の長い生涯を送つて來た――母親には、なぜそんな事をしたのか解せない一つであつた。

欣造は首を傾げて考へるような風をしたが、

「つまりかふなんでせふ、お枝美さんが此間歸るに就いて留守を柳田――欣造の姉の家――に賴むで來たでせふ、だから男の所へ鄕里へ行くといふ電報をうつたんだ、若し留守の所へ手紙が來て柳田の姉さんにでも見付かつたり――でなくともこつちへ廻送でもされて、他の人の手へでも入ろうものならそれこそ大變だからそふしたんでせふよ、お枝美さんも仲々拔目がないさ、」

「そうだ〳〵、それに違ひはなし！」

と、お豊はせき込んだ調子で强く言つた。

「わるい方へかけちや、まあごんなに狡猾もんだかな」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お菊は足の長い簪でいやに油臭い丸髷の根をやけに掻きながら、眉間へ深い皺を刻むで憎々しげにかう云つた。

「一體其男はどこの者んだろうな？」、お豊はまるい目を好奇的に見張つて欣造の面を瞻る。

「和歌の浦とかいてあるから、ことによつたら紀州の者かも知れない」

「紀州つて？」母親は一寸思ひ出せないと云つたように訊く。

「まあお母さんは、紀州つて蜜柑の出る所でありすに、此地からよつぽどあるえな欣さん」、

「二百里位あるでせふ、こゝにもかいてありすわ」

「まあ二百里も遠方の者とどうしてそんな淫奔（みだら）なことをしたもんだかなあ」

母親はかう云つて、蒼白い面に沈痛な色を浮べて吐息を洩らした。

「何者んだいやあ？」

事件其ものよりは、對象の詮索により多くの興味を有つお豊は、せめて想像になりと其男を書いてみたいと云つた風な容子をして、誰にともなく訊いた。

「さあ、何者ですかね、この手紙丈けぢやわからんな」

と、欣造は青い小形の封筒を取り上げて表面を視た。が、差出人の名はなくて消印は、か

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すれて和歌といふ丈けが漸く讀める程であつた。
「欣さんその先きを讀んで御覽や」
お菊はもどかしそうに云つて膝を横にした。欣造は飯臺に兩肘をついて二つに折つてある手紙をばら〳〵やつてみたが「折角の秘密もかふなつちやア價値がない」と云つて、「先月の初旬」と云ふ所から復た讀み出した――所々說明を加えては――けれ共三人には手紙の意味がすつかりはわからなかつた。欣造は遂に面倒臭くなつて中途から默讀した。そして、
「其男がね、もふ迚も離れては居られないからこの五日か六日の頃には、どんなことが有つても東京へ歸るから新橋迄で出て居て呉れつてうんです、それで歸京期日は確定次第電報でお知らせするが、尙手紙を直ぐ呉れとしてある」
と、くすぐるように笑ひながら云つて手紙から目をそらした。終りに小さくHと署されてあつたが、彼は敢えて之れを云はなかつた、H丈けでは何んと說明のしようもなかつたからである。
「お枝美さんも思ひ切つたことをしたもんですね」
と、云つて伯母の顏を視たが伯母は蒼ざめた、憂に堪えないと云つたような面をして娘達

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を視た。

「夫や子供のある身を忘れて、飛んでもない不埒なことをし出かして困つたもんだえなア！」

「だからお母さん云はないことぢやありしねか、全體兄さんが外國へゆく時にこつちへ歸してさへおけばこんなことはまさかになア、東京に一人で置いたと云ふのが間違つておりすわ」

お菊は勝氣らしい濃い眉を蹙めて云つた。

欣造は餉臺に頰杖をついて、其方に出してあつた茶うけの、かたいかき餅を食ひかき乍ら、午に近い裏庭の陽ざしを瞰た。

軒よりも高く延びた南天の根本には、三四羽の鷄が赫黒い地の色に白く霰小紋をおいたように、撒かれた小麥やひきわりをついばんでゐる。

幾十の星霜を雨や風に打たれて、黒ずんだ老松の幹は龍が蟠つたように横に長く、添え木の上に臥して、引き絞るような聲を出して蟬が鳴いてゐた。

涼しく吹き込んだ朝風も、次第〳〵に暑い日盛りに進んで額や腋の下には、ヂワ〳〵と心地わるい汗がにじんだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「女房さん、坊さんが寢んねしてお仕舞ひなしたからお連れ申して參りした」、白縮みの油やさんを着た三つ位の男の兒が、小婢の脊の上で熟く眠つてゐた。母親は欣造の前にあつた手紙を慌てゝ懐へ入れた。

お菊は兒供を靜かに小婢の脊から下ろして、側にあつた小蒲團の上に寢せると、眼を覺ましてワッと泣き出した。

欣造はそれを機會に一寸會釋して起ち上がつた。

「欣造や、お前自宅へ歸つたらな、お父さんに午睡をおやりなしたら、お忙そがしくも、ちよつくら來てお呉れなさるようにお話し申してくれな、少し御相談したいことがあるからつて……」

と、母親は欣造に命令けた。

二

臺所から土藏迄で附いて居る大きい二階建ての離家は、三方を池で圍まれて浮草や目高の透いて見える清冽の水は、高い石垣に茂り合つた蔦の緑と相映じて、青い漣をその面に湛えてゐる。

三百坪にも餘る池の彼方の築山には、頂上の楓や樅の涼しい葉蔭に風雅な、可なり廣い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

亭が設しらへられて、月明かに星稀なる涼しい夏の夜などは、克くそこで酒宴が催されたり、ゆたかな謠の聲が聞えたりしたのであつたが、それも今は閉め切りがちで、菖蒲を植えた池に面した菖蒲の間も、蓮池に臨んでゐる蓮座敷も鄙には珍らしい數寄な普請であるが、滅多に開くこともなかつた。日に〳〵浮世の波に洗はれてゆく遠野の家の寂びしさを語つてゐるようであつた。

二三年前に逝くなつた遠野の父は養子であつた。比較的進んだ思想と學問とを持つて居たのに、搗てゝ養家の富と正しい家系とは、其村に於ける元志として當時近郷に比肩する者の無い勢力を振はせた。

何時も彼は家を外に村治や其他の公事に力を盡したので、東京へ出る事も度々あつたが、その妻や娘は一度も同行すると云ふことはなかつた。それはその妻が極端な保守主義であつたから……。

其蓮座敷は珍らしくも戶が開いて人々は集つた。

それは母親に叔父夫婦――叔父と云ふのは母親の妹が近所へ別居して迎へた欣造の父親である――にお豊お菊などだつた。折角の貝刷も所々剝げて生地の土が斑に出てゐる床を脊にして座つた叔父は、赫黛い痘面に狡猾な性格を思はせる小さい眼を上げては、人の心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

底を臆測するように時々其顔を視乍ら、まわりくどく語る年老つた義姉の言葉に耳を傾けた。

一通り話した義姉は、

「其手紙と云ふのが是で御座いす」

と、手摺れて撚れ〳〵になつた黒繻子の帯の間から出して前に置くのを、叔父は取り上げ眉を蹙めて上書を視た。そして中から手紙を引き出して開いたが、

「當今の若い者は皆かふ云ふ手紙をかくで、俺等のような年寄りには讀めしないでな」

と、云つて復た封筒へ入れ、

「何んしろ困つたことをやりしたな、おめえさんの仰有る通り若しこんなことが世間の耳へでも這入つたらそれこそいゝ面汚しですしな」

腕を組んで白髮の多い頭を傾げた。

叔父と並んで斜めに座つた叔母は、病身らしい痩せた肉體をして、やつれた面にをり〳〵神經的な皺を寄せては、銀着せの細い煙管で煙を吹いてた。

池の面を傳ふて來る生暖い風は、それでも汗ばんだ人々の肌に心地よく吹き入つた。池の中では思ひ出したような鯉の跳る音がする。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

暑い盛りの田舍の午過ぎの一と時は殊に靜寂で、軒端をさ迷つて鳴く黑蜂の聲も人の眠氣を誘ふようだつた。

池の向ふを繞つてゐる低い生垣を越えて、一望の水田には稻苗が照りつく陽にも心地よい淺綠の線をそよがせてゐる。

叔父は組んだ腕を解いて團扇を取つた、女達は云ひ合せたように其面を瞻る。

「こりやどうしても此儘にはしておかれないから、兎に角柳田へ言つてやりしてな、枝美を呼び寄せるのが第一で――あの儘東京に置いて、其麼若い男と段々深入りして此上若し間違でも起きた時には、耻の上塗りをするようなこんですからな」

「それで？」

叔母はそんな事では手緩いと云つた風の眼をして叔父を覗乍ら訊く。

「それで此事は早速精の所へ知らして、彼の意見をきかなきやならない」

「お姉さんの前ですが精も一體人が好すぎるからこんなことになつたので御座います、いくら自分が好いて貰つた嫁だつても、此麼淫行(いたづら)をさせると云ふのは余り野呂間過ぎるぢや御座いしないか」

叔父とお菊は數ある肉身の中でも、殊に枝美を嫌つてゐたので常から何かにつけては攻

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

擊した。そしてせめて手答へのあるような失策のあれかしと、願はぬ許りの眼を瞠つて、枝美の行動にそれとなく注意を怠らなかつたのである。

枝美は遠野に嫁してから舅姑の許で暮した。地方から地方へと轉任して歩く地方事務官の娘に生れて、小學校へ通ふ頃から東京の伯母の許へ預けられ、そこで育つた身には慣れない田舍暮し――固陋な形式にのみ捉はれて、春や秋には生れてから見たこともない養蠶にも手を出さなければならなかつたが、それにも況して辛かつたのは絶えず身邊に輝いてゐる鬼千疋の眼だつた。意地の惡い叔母は殆んど毎日のように來た。好人物とは云へ二度も嫁入つて其度び夫に死別れ、今は寄食人（かゝりうど）となつてゐる總領の姉――お豊――も居る。

お菊は隣郡の素封に嫁いで、もふ五人の兒の母親であつたが、これも病氣だとか產をするとかで、克く歸つて來ては幾日も逗つてゐた。其他今は遠方へ行つてゐる直ぐ上の姉も夫婦に兒供連れで來ては幾日も泊つて行くことがあつた。而して代る〳〵理由もなく枝美に辛く當る。

そういふ時、枝美は孤り寢の寂しい枕を抱いては、口惜しい念にさめ〴〵と泣くこともあつた。そして未だ當時東京に書生してゐた精と、實家の母親とにその悲しさを訴へた手

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紙を送つた。

かつては樂しかつた娘時代に、華やかに胸に畫いたニユマダム振りなどの、絢爛な文字に若い心を躍らせたのも、たゞ儚い幻に過ぎなかつたのを思つて、枝美は云ひしれぬ辛い悲しい日を送つてゐた。

その窮屈な、そして壓しこめられてゐるような生活から、籠を放たれた鳥の天翔けてゆくような悦びを以つて、東京に精と初めて二人限りの世帶を持つたのは、精が學校を卒業して一年經てからであつた。

併し其悦びも永くは續かなかつた。精は或る野心を抱いて遠く異國の空に向ひ、枝美は二人の男の兒を連れて東京に一人殘つたのである。が、

此身に端なくも一封の書狀は、流石に田舍人達の、豫想の外なる秘密を曝露した。例へば堰き止められた水の、斷れた塘から奔流するようなものだつた。塘は破れて水はひた奔りに奔る。母親は唯惑つた。

叔母は極力離婚を主張して止まかつた。精に訊くまでもなく、一家を主宰して母として、こんな赦すべからざることをした者は、獨斷で處分して差支へがないと云つた。それがまた此家を守つてゆく人の爲なくてはならない義務であり、且つ祖先へ對する最も大なる報

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

謝の一つであると云つた。

「そう云へばそうではありすがな、精にしても未だ年が若いし、枝美を出して仕舞へば後添も貰はなくてはなりますまいし、そうなるとたゞ可愛そうなわ、あの頑是ない兒供で御座いす」

恁ふ云つて母親は妹夫婦の面を視たが、その眼には涙さへたえてゐた。同じく姉妹と生れ乍らもその性格は異つてゐた。先づ母親は情に脆く、叔母は智に走る女性であつた。

併し叔母が事毎に主張する意見の裏には、何時も叔父の指圖が潜んでゐるのであつた。狡猾な叔父は叔母を使嗾して巧みに本家に干渉した。叔母が口を極めて枝美を罵るのは、固より枝美の仕打ちに嫌たらぬ點があつたからではあろうが、人知れず操つる叔父の糸が與つて最も力があつたのである。それは元から此叔父は實家の姪を精の嫁にして、若い精をして我が思ふ儘ならしめ、專ら本家の權利を掌握し度いと、云ふ世間にはよくありがちな、さもしい心からであつた。而して互に其仕打を快からず思つてゐる叔母を煽動した。煽てられると、氣が付かない叔母はいよ／＼枝美を罵つた。お豊やお菊、それ等は唯小姑と云ふ感念から一も二もなく叔母に雷同して戈を向けた。

「自分で生んで自分で育てた兒供でさへ思ふ様にはならないものを、況して他人の兒がな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んでそう〳〵氣に適ふ道理がない、何事も勘辨が大事だ」と、何かに付けてお豊やお菊に云つてきかした、所謂勘辨主義の母親は獨り枝美を庇つた。

一體枝美に就いての離婚問題は之で三度目であつた。最初は嫁いでから二年目の春、農村では最も忙しい養蠶期を東京の伯母の許へ來た切り、病氣だと云つて歸らなかつたのが因で、其次ぎは三年前に父親が亡くなつた時、其葬儀の席で笑つたのを別家の叔父に見られたからであつた。併し最初の時は精が極力反對し、二度目の時は兒供が可愛いからと母親が肯かなかつた。

「全體あの女は心得から間違つて居ります、親の――それもあの通り可愛がられた――葬式に、例へ噓にしろ笑ふなんて者が何處の世界に御座いしよ、そうした人間だから此麼勘辨のならないことも仕出かしたので御座います、」

叔母はいくら勘辨にも程があると云つたような面をして姉を視た。

「そりや出來る勘辨なら何點までもしてやらなけりやならないが、」

と、叔父は叔母の顏を瞥と視て、

「兎も角今も云ひしたように、枝美を呼びかへすのが何よりも肝腎ですから……」

と、義姉の方を向いて云つた。

それから精と柳田へ――別家の娘が嫁してゐる家――事の趣を知らせ、尙枝美へは至急歸るように、手紙を出すことにきめて叔父は先きへ歸つた。

後に殘つた叔母はお豐やお菊を對手に、盛に枝美を罵つたが、母親は一人深い憂れに沈んでゐた。

暑い懶い夏の日は傾いた。よみがへるような冷たい風が吹き込むと、白い空に遠く雷の音がして、やがて烈しい夕立が來た。（つゞく）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

燈影――三ケ島葭

さびしさのはてに流るる涙もていかでわが身のきよめらるべき
かくばかりかなしきものをわれすでに死にけるものとおもひこしかな
けふもまたなやましといふひとことに盡きしわが世を何といふべき
人の世のかなしみとのみおもふなりおのれひとりのこのこころをば
きのふけふ悲しき夢をみればとて君をたのまぬわれにあらねど
よそびとと語るをみればそのかみのおもかげいまだのこりたまへる
ひとすぢに人をおもへる心もて思はれぬ身を悲しとおもふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ああわれに稀有のことなりこのあした身によみがへるちからをおぼゆ

みづからをかたのごとくにつくろへるわれには恥も失せにけらしな

二つ三つたのまれぬことあるゆえに捨てんとさへもおもふなりけり

樹は立てり立ちすくみたるわがごとくはたみなぎれるいのちのごとく

歎きつつさめしこころにほのかなるあけぼののいろしみてはなれず

かにかくにきみを戀ひてぞうたひ來しいまかたはらに何をうたはん

かなしめば人こそ憂けれ聲たてて泣きもあたはず胸の裂かるる

ああいまだまことの世をば知らざるかなすすべなきわれをひとり責めえず

しばらくはそのかなしみも忘れけりわれに流るるなみだをばみて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

離れえぬ身とさだまらば一生の苦しみなどはものともせざらん

心には何のめあてもあらずして待つといふこそかなしかりけれ

かなしみも愁もつなぐちからなしおびえそめたるわがこころには

やすらへるわれとおもへば悲しけれことあれかしとおもふならねど

信づれどおもへど君が愁すらのぞくちからのあらぬ身なりし

みづからのおもひでなどにおそはるる心よけふのこころともなし

おもふともかへるすべなきそのかみを忘れざるこそくやしかりけれ

美しきみ空あふげどさけびえず何に足らへるわれのこころぞ

捧ぐべき心足らはぬここちして君をおもへば逢へど寂しき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふと星の目にとまりたるこのゆふべ人の話にこころひかるる

砕かるるここちもなさずうつつなう涙流るる身をいかがせん

みづからをさいなまんなどたくらめるわれか日も夜もものに怖ぢつつ

ぬかるみにこころとられて歩む身のあまりにかなし春の夜の雨

ほろほろと土のくづるるきりぎしにおかるるごとく白梅の散る

ものたらずおもへるほどに妬ましきひととはなりぬいつしたしまん

みづからをしづかにみればあきらめのほかなきものをさわぐと恥ぢぬ

明日逢ひてかたらば足らんとおもへどけふの文こそかかまほしけれ

山いでし身のいまさらに聞かんとはおもはざりける鶯鳴きぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

屋根の板ぬらす雫の音ききぬ晴ゆく空のしづかなる朝
なきがらの燒かるるごときここちしていまひたすらに友のこひしき
君思ひめざめてあれば家鷄も阿呆鳥の鳴くここちする
かたらるるかなしきことの身にしまぬ身にもあらねど逢ひたればよし
かよわさをつとめて人におほへよと父の憂ひしわれなりしかな
みづからを唯に足らはぬものとのとのみ思ひてわれのかへりみもせず
はかなしとおもひつつなほなげうたずいのちかけんとすればいたまし
いつはりの世をおくれるかことごとにいのちとらるるここちのみする
やうやくにわが世とおもふ時來れば力なき身のかなしみぞ湧く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

同じ世に苦しむ我にあらざるか君をさばかりきはまるとみず

君あれどわれ甲斐なしと身をもがくわがままびととなりにけるかな

ああつひに忍びえずして訴へしかなしみなればわれにな消えそ

たのむべき道にあらずと知るやはやゆくては暗くさへぎられゐぬ

世にいでん心のまことあらぬ身か否か知らねどあはれとおもふ

あめつちをおそるる如く泣く我の恨をひとの何と思はん

いやさらにこころおびゆるわれならん戀しとだにもいはぬこのごろ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私信―野枝

―野上彌生樣へ―

八重子樣

本當に暫く手紙を書きませんでした。この間の御親切なお手紙にも私はまだ御返事を上げないでゐました。御病氣はいかゞです。私は矢張り落ち付かない日を送つてゐます。もうすつかり新緑になりましたね、此頃は毎日染井が思ひ出されます。本當に彼處の晩春から初夏にかけての殊に夕方のよさつたらありませんね、私たちもまた、彼處へかへつてゆきたくなりました。去年の今頃は毎日のやうにあすこの垣根から聲をかけてはよく立話をしましたつけね、讀んだものゝ話、それから書いたものゝ話ね、興味につられて何時迄もはなしてゐましたね、丁度あの頃あなたはあの窓の下でソニャを一生懸命にやつておらしたんですわね。そして、私にいろいろな興味深い話を聞かして下さいましたのね、私たちはあの垣根越しに、他の人たちがお座敷で三年もなじんだ人よりももつと親しく氣安くあんな興味のある、そして、普通の垣根ごしに話される話とはずつとちがつたはなし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を隨分しましたわね。

それにくらべると私のこの頃の周圍のさびしさつたらありませんのよ、不精でちつとも出かけませんので無論來て下さる方もないしそれにお友達をそんなに澤山もちませんので時々聞いて頂きたいやうな話があるときはさびしくなります。私のお友達つたら、まあ、あなた、平塚さん、哥津ちやん、位なものでせう、話したいと思つたときに聞いて貰へる人があれば本當にいゝと思ひますわ、Tが大抵の話は聞いてくれますし、解つてもくれますからそれでどんなに助かるかしれませんけれども或る特異な事になると一向男の興味が向かないことかよくあります。私はかなりおもしろいと思つて熱心に考へてゐても話してゐる人に興味が乘らない位おもしろくないことはありません、そんな時には、家の中に座つてゐてよんでも聞こえる位だつたあのあなたに近かつた家を思ひ出します。私の不精はだん〳〵昂じて來てこの頃でははがき一本かく事でさへおつくうなのです、ですから無論誰ともはなしもしませんし、聞きもしません、たゞ話たいこと丈けが矢鱈にあります。けれど自分のはなしたい事を話すまへにお答へしなければならないことがありましたつけね。

私はあのお手紙を拜見してどうしてそんな噂があなたのお耳に這入つたのかと思ひましたわ、それや噂ですもの、飛でもない處にでも聞こえるのがあたりまへですけれどもね、

でも私はさう考へると直ぐあとからどうしてそんなうはさが出來たかふしぎになりましたの、だつて私たちは別に何でもないのですもの、もとのまゝの二人ですもの、ちつともかはつてやしませんのよ、ですから誰がそんな途方もない事を云ひ出したのだらうと思ひましたの、でも、それも直ぐと分りましたの、あなたは噂の内容をくはしく云つて下さらないから分りませんけれど多分Nと云ふ、今は旬刊雜誌の『D』にゐる男に關係したことなのでせう。それだとわかります、本當に何時も〳〵云ふことですけれどどうしてかうありもしないことを事實にして云ひ立てるのが皆うまいのでせうね、しかもそれが一かどえらさうな顔をしてゐる人達ですからね。

　私はあのNと云ふ人は大嫌ひなのです。それ丈け申あげれば私の性質を御存じのあなたはあなたのお耳に這入つた下らないうはさを立派に否定して下さると信じます。實際私はあの人の批評をよんでゐて、頭の明晰なことや觀察の緻密なことには感心します。けれどもどうも何となく虫の好かない人なのです。それに、あの人は以前どんな人の作品だつて決してほめませんでしたね何かしら、けなしつけてゐたでせう、それに私に會つてから急に私を賞め出しました。續け樣に賞めました。でも私は、それよりも『D』に書けとすゝめられるまゝに書く約束をして仕舞ひますと、何かにかこつけてその人が度々來るのがいや

でたまらなかつた位です。全く理由もなしにいやなのです。私はその人が來さうだと思つた丈けでも氣が重くなる程でした。好きだとか嫌ひだとか云ふことは實際自分ながらどうすることも出來ませんわ、向ふの人にさういふそぶりを見せることをしないやうにしやうとすればます〳〵自分が不快になるばかりですから、私はとう〳〵その人に云つてやりましたのよ、どうしてもあなたが嫌ひですつてね、するとその人はそれは自分も知つてゐるし自分のうまれつきにもよるからたゞ理解して頂きさへすればよいと云つて來ましたの、でも矢張り近かづかう〳〵としてゐるのが私には感じられるので隨分いやでしたの、そのうちにだん〳〵不遠慮なことを書いては手紙をくれましたのよ、そして、初めとはちがつてあなたの理性によるよりも心から親しみをもつて貰ひたいなんて云ひ出して來ましたの、それから何かにつけて自分丈けしか男には理解のないやうな顏をするのでせうそれも私にはいやでしたの、そして私の家が無理解な人ばかりだから交捗のない人たちばかりだから嫌ひだとか、かなり私の家庭生活を侮辱するやうな事も書いてありました。そしてTのことなんかよくも知らないで無理解な一人にしてゐるんでせう、私は隨分はらが立ちましたから思ひきつて書いたひどい手紙をやりましたの、そしたらおどろくでせうその辯解の手紙はね、まるで前の手紙とは矛盾してゐるのですもの、で私はそれつきり手紙をかきませ

ん、隨分催促が來ましたけれど。何しろあの人は私の一番嫌ひな性質の人らしいのです。これ丈けは私の理解性をいくら働かしても好きにはなれさうにもありません、そんなわけですから、勿論その爲めにTと私がどうとかかうとか云ふことはちつともありません。世間の人は、ちつともそんな事は考へないでたゞ賞められゝば直ぐに好意をもつたり親しくなるものと簡單にきめてゐるのですね、ですから何卒その事は御安神下さい。

それから此度は、私のおしやべりになりますが、私はこの號に出てゐる原田皐月さんのお作をよんで毎日あの中に取り扱つてある問題について考へてゐます。これは本當に眞面目に考へる價値の充分にある問願だと私は思つてゐます。子供のことについては二人でずいぶんいろいろおはなしをしましたのね。

私は皐月さんの仰云るやうに親になる資格のないものが子供を生むと云ふことは、これは本當に考へものだと思ひます。併し私は資格と云ふことについては矢張り別に考へなければなるまいと思ひます。本當に深く考へれば考へる程私は未成熟のものでないかぎりまた或る缺陷を持つてゐる者とか無能力者、白痴、狂者など、或る種の疾病をもつもの以外に即ち普通の生活に堪へ得るものであつて生理的にも充分發育を遂げたものならば資格は先

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

づあるものにちがひはないと思ひます、あなたはさうお思ひにならなくつて？、併しどうしても子供の出來ると云ふことが苦痛であつたり、恐ろしいと思ふ念を拂ひ退けることが出來ない時には、その場合避妊をするもいゝでせうけれど一旦姙娠してからの墮胎と云ふことになつて來ればさうはいかないと思ひます。私はそれは非常に不自然なことだと云ふことが第一に感ぜられます。兎に角、それがどう育つてゆくか枯れるかは未知の問題ですわね、併し、生命が芽ぐまれたことは事實でせう、その一つの生命がどんな運命のもとに芽ぐまれたかどうかは本當は誰にもわかりはしませんわ、それをいろいろ自分たちの都合の爲めにその『いのち』を殺すと云ふことは如何に多くの口實があらうともあまりに、自然を侮辱したものではないでせうか、『生命』と云ふものを輕視した行爲ではないでせうか。

皐月さんが仰云るやうに一と月のうちにでもどの位無數の卵細胞が無駄になつてゐるかしれないうちから、その一つが生命を與へられたと云ふこと丈けでも私たちの目に見えない微妙な何物も持つてゐる與へられたこの命にまつはる運命と云ふものを思ひます。その運命がどう開けてゆくかはまへにも云ひましたやうに誰にもわからないのですものねそれを、その生命を不自然な方法で殺すと云ふことは私ならば良心のいたみを感じます、あなたはどうお思ひになつて？　皐月さんは自分の腕一本切つたのと同じだと仰云つてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。腕は別に、獨立した生命をもちません、人間の體についてゐてはじめて價値のあるものですものね、それを切りはなしたと云つて法律の制裁をうけるやうなことはすこしもないのです。また必要もありませんわ、自分で困るのですもの、そんな馬鹿なことをする人があるでせうか、それは自分自身で仕出かしたことではありませんか、ところが腕を一本他人のを切つて御覽なさい、それこそ大變ですわ、直ぐ刑事問題になるでせう。それと同じですわ、たとへ、お腹を借りてゐたつて、別に生命をもつてゐるのですもの、未來をもつた一人の人の生命をとるのと少しちがはないと私は思つてゐます。皐月さんはお腹の中にあるうちは自分の體の一部だと思つてゐらつしやるらしいんですけれど私は自分の身内にあるうちにでも子供はちやんと自分の『いのち』を把持して、かすかながらも不完全ながらも自分の生活をもつてゐると思ひます。其處に皐月さんの考へと私の考への相異があるのですわね。

それから、自分達の生活の窮迫と云ふこともあの問題にかゝはらしてありますわね、それは私自身にも經驗のあることである丈けに非常に尤ものことに思ひました。私もあの子供が私の身内に息をしてゐるのを感ずる度びにそのことは非常な苦痛でした。あなたも御存じのやうに私たちはその時窮乏のどん底にゐました。私は子供の爲めにたゞそれのみ苦に

やんでゐました。けれどもTは、私が苦しがる度びに云ひました。

『こんな生活に堪へられないやうな抵抗力のない子供ならば生れて來る筈はない』と。

本當にさうだ。と私は思ひました。まだそれに滿足に生れるかどうかさへ分りはしない。私たちの明日の生活さへ分らないのだもの。子供は矢張り子供自身の運命をもつて生れて來るのだ。貧乏だと云ふことが決して不幸な事ではない、こんな處へ生れて來るのも子供の運命がさうなんだ、もし子供が富有な運命をもつてゐれば生れるまでには自分たちの生活もいくらか窮乏からまぬかれるかもしれない、もしまたさう云ふ生活に堪えられないなら自然に生命が消滅するより他に道はない。すべては未知の問題なのだとさう思ひましたのよ、さうして私は平靜に子供を産むことが出來ました。それから自分に子供の敎育をする能力をもたないと云ふことも苦痛の一つでした。けれども私はこの頃子供の發育やそれから智慧のづき方をぢつと見てゐますと其處にも私たちの力のおよばない偉大な力を見出します。人間が人間を敎育すると云ふことの到底不可能なことを染々思ひます。あなたが何時か私にお話なすたわね、子供が食べ物でなんか育つのではないと思ふつてねえ、本當に、私は始終あのことを思ひ出してゐますわ、敎育なんていくら云つてさはいだところで自然の導きを私達がどう阻みませう、綿密な注意も觀察もたゞ子供自身で行ふ敎養を手傳

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひする位ですわ、自分の理想をえがいては　その通りにそだてやうなどゝ思ふのはもつての外のまちがひだと思ひます。人間の智慧と云ふものも私にはあまり有がたくはなくなりました。何だか話がすこし横道へはいりましたわね、兎に角、私は、皐月さんの墮胎の説には賛成することが出來ません、勿論私はこれは皐月さんの思想か或は想像の上の創作であるかは知りませんけれども兎に角あの作に現はれた思想に對してはさうです。あなたはどうお思ひになりますか、これも矢張り子供をもつたものの、子供の爲めの思想だと其處らで笑はれるかもしれませんけれども私は本當に長い未來をもつ「いのち」には心から或る尊敬の念をもちます。「芽」と云つても矢張り私は同一の意味で大切にしたいと思ひます。

　私は子供の事を深く考へれば考へる程どうかしたはづみに知らず〳〵子供の上にのしかかつてゆく自分が情なくなります。私は被教育者としての位置にゐたときから教育に對する澤山の不平をもつてゐました。今はまた子供の育つのをぢつと見てゐて更に深いおそろしい教育の缺陷をまざ〳〵と見せつけられます。

　靜かなあなたのやうな方にはそんなことがないかもしれませんけれど私のやうに感情の動搖のはげしい者には殊にかなしい情ない子供に對して申わけのない絶望の時がちよい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵見舞ひます。殊に、ひどくヒステリックになつてゐる時などに、執念くまつはりついたり何事かねだつたりする時私の理性はもうすこしも動きません、狂暴なあらしのやうに、まつはりつく子供をつき倒してもあきたりないやうな事があります、けれども直ぐ私は、自分でどうすることも出來ないその、狂暴な感情のあらしがすぎると理性にさいなまれるのです。そのかなしい感情をどうすることも出來ないと云ふことが私には情なくも腹立たしくもあり絶望させられるのです。そして子供が可愛さうでたまらなくなります。子供がそれをどういふ風に感受するかと思ひますと、私は身ぶるいが出ます。けれどすぐ私はそんな時に思ひます。あゝ、私はまた間違つた教育者を街はふとしてゐると。私のこの突發的な感情を今によく理解させさへすればいゝのだ。そのうち子供の方で理解するやうになる、と思ひ返します。自分の醜い處を覆はふとするやうな卑劣なまねは子供に見せたくないと思ひます。たゞ醜い自分の缺點に對して自覺を持つてゐないと子供に卑しまれると思ひます。何だかとりとめもないやうなことを隨分書きましたがまだ〳〵書きたいことはあとから〳〵湧き出て來るやうです。

この間、ストリンドベルヒの「癡人の懺悔」を讀みましたの、あんなにも私は女に對して憎惡のこみ上げて來たことはありません。前に私はストリンドベルヒのものは三つ四つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

讀みましたけれど私はあとで何時までも〳〵氣持がわるくてたまりませんので先づきらひと云ふ觀念が先きにたつて讀まうとしませんでしたの、それに何時かあなたにもお話ましたわね、土曜劇場で「父親」を見てからと云ふものは一層あの人の作物がいやになりましたの、あの人のものでたつた一つ私のよんだ三四のうちで今迄さう憎惡の念をもたずによめたのは「女學生」丈けでした。處が此度「癡人の懺悔」をよみましたら、私のストリンドベルヒに對する考へ方は一變しました。私はあの人があんな女性觀をもつやうになつたのに何の無理も見出せなくなりました。私は無自覺な無智な女の醜さを染々と見せつけられました。そうして、私自身の中にもさうした、無自覺な、女の習性が澤山うごめいてゐるのを否定する勇氣はどうしてもありませんでした。一人の女の生活が一瞬にすぎた考へまでが眞面目な最も率直な筆で隅からすみまで描き出されてゐます。さうして私はそれが決して少數に屬する特異の女でなく多數を占めた普通の女でしかないと思つたときに、本當に、しみ〴〵嫌やな氣持になりました。さう云ふ女が一ぱいうよ〳〵世界に充滿してゐると思つて御覽なさい、本當に、たまりませんわ、けれども普通の男達には矢張りそれが左程の苦痛にはならないのでせうね、とてもあんなに辛抱づよく寛い心で女をがまんしてゐる程深い、強い愛を注ぎ得る人は一寸ありませんわね、それに少しでもいやな處が見え

ればすぐ左様ならにしてしまふんですものね、だから大抵の男には本當に女のねうちがわからないし、女にもわからないのですわ、男のねうちが――みんないゝかげんの處でおしまひになつてしまふんですね、本當に、私ストリンドベルヒと云ふ人を、えらいと思ひましたわ、「痴人の懺悔」は確かに誰でも一度はよんで見てもいゝ小説ですね、何と云つても眞實なものには叶ひませんのね、だら〳〵しまりのないことばかり書きました、もう止めませうね、とりとめのないことばかり書きまして。

此度の編輯がすみましたらきつとお伺ひします、そのときまたいろ〳〵おはなしいたしませうね、染井の田圃でも歩きながら。

――(五、二五)――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

處女作——さくら子

八

Yさんは電車の中でも唯心持がそはついて居た。時間ももう二時近くだ、先方では定めし焦ついて待つてるだらう、什麽顔して待つてるのか、髯でも綺麗に刈り込んで、異にとりすましてるに違いない、彼女は妙な好奇心で一杯になつた。疾走する電車が頓狂な聲を出せば、車外の町を歩いてる人達が皆滑稽に見えた。終點で電車を降りて、手紙の注意書にあつた通り、廣い通りを右にとつていそ〳〵と歩むだ。どこ迄も眞直な通りを傍目もふらずに行くと、軈て片側が家並で、片側が直ぐ波止場つゞきになつた堤防の上に出た。折からの引潮に打上げられて殘された人家の雑物や芥が、かうした場末の波止場の醜さを露はにした。どの家を見ても粗雑な店頭に、粗雑な間の拔けた顔や人を捕つて食ひさうな顔が並んでゐた。どこかで魚市の競賣の意味もわからない蕃聲が聞えるかと思ふと、種々な噪音の中を絡繹と續く荷車や荷馬車の砂つ塵りに、眞晝の日が照りつけて、何のことはない人を狂させる樣だ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

先刻から行く手に注意してゐたYさんは、この騒々しい町續きの終らぬのに、先方に當つて牧師の姿を見出した。普通なら茫然と沖の方でも眺めて待つて居るべきだのに、此の人は又眤と女の來るのを眞正面に凝視してゐた。それは餘りに無遠慮で厚顔だとも、又熱烈で氣味の惡い程だともYさんは思つた。そして此方からも睨め返してやらうとも思ひながら、彼女は自然俯きがちだつた。極僅かな一刹那ではあつたが、あのメランコリックな、人に凭つかゝりさうな顏と相見ねばならぬといふ意識が、彼女に可成强い苦痛に似た一の壓迫感を與へるのであつた。

傍の眼もあるので二人は却つて格別の拍子惡さもなしに、一寸會釋して平然と歩いた。

『お待ち遠樣でございましてね、よほど御まち下さいましてせう。』

『いえ、どう致しまして、そんな事は何でもありません、……ですがいゝお天氣じやありませんか。』

『え、眞箇にね。』

二人は町をはづれて、殺風景な道を辿つたが、別に談話の端緒に困るほどでも無かつた。草葺の屋根の、東屋の樣な家が二つばかり道の兩側に並んでゐた。

『僕んところの犬は、昨年の暮に此家から貰つて歸つたんですよ。』

『おやさうでございますか、あの小さな可愛いものをねえ。』

『貰つた時にはこうして――と茶皮の手袋の手を窪めて――僕の掌に載づけて歸りました、弱々しくつて口の中へでも入る位でしたよ。』彼は其當時を想ひ起す樣に空を仰ぎながら『僕と妻と、TさんとNさんとね、都合四人で蘆の浦へ行つたことがあるんです、その歸り途にね。』

彼女は彼の態度に表はれた刹那の僅かな感激にも、成るべく調子を合さうとつとめたが、遂口が辷つて心にもない卑肉ともつかぬことを言つた。

『ま、幸福な動物ですね、あなたの飼犬らしく人懷つこい、本當に愛い動物になりました。今日お連れになればよかつたのに、お實家を見せかたぐ、そしてお序に奧樣もね。』

牧師は苦笑した。

『あれにはつくぐ困りきつて居ります。解らないにも程がありますからね。それに第一僕とはそりが合はないのだ、虫が好かないのだ、運命だと思つてこれまで默つて諦めては來ましたがね。』

『でもあなた、先生、奧樣は又あなたがしつつこ過ぎて困るつて、こぼしてらつしやいましてよ。』

『冗談じやありません。』と不興氣に、『小供がないせいでもあるのか、非常なヒステリーでしてね。』

『小供がないから、小犬でも可愛がる！　何ておうらやましいことでせう。』

『…………………………。』

道のうねくと曲つた緩漫坂にさしかゝると、牧師は何か自裂つたさうに、銀の帶を卷いた太い黑檀か何かのステッキで、矢鱈と土をほぢくり廻はしてゐた。突然、

『Yさん、僕が結婚してからどの位たつとお思ひですか。』

『あら私にそんなことが解るものですか。』

『だつて大概どの位とお思ひになるか、仰有つてごらんなさい。』

『大變な難題ですね、私には解りませんから申上げられません。』

『二年になるんです、足かけ三年目ですが、丸では二年にもならないんです。その間僕等はお互にどんな生活をして來たでせう、僕は不幸ですね、彼女も不幸な女だ。』

女は故意と恍けた顔をして、一向眞面目に聽かうともしなかつた。急に今日から男が自分のことを僕々つていふのが、可成女の注意を曳く事實だつた。かく思ふ彼女自身も彼を『あなた』呼はりする様になつてるのに氣がついた。それでも男の態度なり話題なりが前

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の日曜日に始めて語つた時とその眞面目さに於て、寧ろその四角張つた冗張面さ加減に於て、ちつとも變つたところなくむしろより鄭重に、より眞摯なものを見せて、しかも何となく心焦れを被ひ得ぬ樣があつた。

『お眺向の日和ですね。』

二人は輕く這般會話を交へた。

丘の上からの一望の裡には、軍港から波止場、市街の殆んど大部分が展開された。一面にぼんやりと灰色のベールに包まれた樣な港の空氣の中に、幾つかの艨艟が鈍い姿態をして浮んでゐた、白い鷗が群れたつては烟罩むだ空のベールの中に輪を書いては降りた。人聲や雜音に交つて作業や工事の音響が傳はつて來た。眼下に此丘續きの山をぬける隧道の口が開けて見えた。男は突然に、

『あ！ あの隧道に這入つて見たい、其處へ瀛車が來たら………。』

女は吃驚して對手の顏を見たが突嗟に、

『あの黝黑な壁に平蜘蛛の樣にへたばりつくのよ。』

『さうじやない、冷たいレールの上に横はる。』

『轟と這入る………その刹那の感興………ですか、ニイチエイズム、それともゴルキイズム？ おゝいや〳〵、いやなこつた、氣味のわるいこと。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イズム？　おゝいや〳〵、いやなこつた、氣味のわるいこと。』

『昨年の今頃でしたか、あつたんですよ、海軍士官の夫人がね、あそこではいつもよくやるんですよ。』

『まあそんな話は止しませうよ、しかしその夫人(おくさん)つてのは又どうして死ぬ氣になんかなつたんでせう。』

『別にこれといふ理由もなかつたさうですがね、甚しいヒステリーにかゝつてたのださうです、何度も自殺を企てたさうですが三度目に遂々やつちまひました。』

『まあねえ、ヒステリーつて隨分こわいものですね。』

『さうですとも、あんないやなものはありません。』

『でも死ぬなんて、どうした氣持なんでせう、死ぬ氣があつたら、どんな事してでも此世に嚙りついて居たいわよ。』

此の時遠方からぐわうといふ地響が聞えて、軈てひゆう、ひゆうと鋭い音が近づいた。呀と思ふ間に轟の音が變つた。向ふ側の口から汽車が隧道の中へ這入つたらしい。束の間を二人は等しく水を浴せられた樣なショックを受けて屹立(つった)つた。黑烟を吐く異形な物體は、直ぐ眼下を一過して、やがて又ひゆう、ひゆうと叫びながら停車場に入つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二人はおなじく此刹那のショックの後に、等しく愕然(がつくり)した、それは自づから各自別な意味のものではあつたが。女はわざと平靜を裝ひながら、しかもその言葉や態度には充分な誇張を見せて、

『あ、あたし今息がつまりさうでしたの、あなたの好きな、そしてあたしの好きな、ダンヌンツイオの死の勝利の一幕に、恰度今のやうな場面があるじやありませんか、紫の美しいアドリアの海にのぞむだ隱家で、おそろしい隱謀をイッポリイタに悟られまひとするジオルジオが、轟といふ音を聞いて、『遲れた!』と悶えるところ。』

『うむさうでしたね、僕も……………。』

『あなたも? どうなすつたつて仰しやるの、あらボートから皆んなが此方(こつち)を見てるわよ、可厭ですわね、さあ早く行きませうよう。』

彼女は手を出して引張らないばかりに急(せ)き立てた。二人の位置から可成距離のある港に、オールの有りつたけボートを漕いで居る水兵達が、一樣に此方(こなた)を見て、何かわい〳〵浴せかけて居るのであつた。

二人は逃げる樣に、しかも互に寄りそつて其所を去つた。牧師はあんまり口を利かうともしなかつた、そして未だ一刻前のおそろしいショックから脱しきれないで、空虚(うつろ)な顔を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して居た。女は牧師の氣を他に轉じさせやうとして、運命といふ問題を持ち出した。そして難かしい、解らないと言つた。其實彼女は自身總ての運命に對して超脫してゐると思つて居るのだ。

『此間先生から拜借したご本を見ると、メーテルリンクの運命觀などは、あまりに御構結すぎてあつけない樣な氣が致しますね、』

『宿命論などゝは全然反對の見地に立つてゝその對照が面白い。或程度迄は自分で自分の運命を開拓して行かれるのは事實です。』

『しかし確かに宿命的なところもあると思はれますね、自分の運命に對しては最も眞面目な努力が大切であると同時に、又一切の運命に超越した、所謂諦めなるものが必要だと思ひます。私は運命に對していつもさういふ見解を持つて居ります。別に今迄考へて見たわけではございませんが、どうやら始めつから運命に對してさういふ態度らしいんでございます。』

『御同感です、あなたは徹底してゐらつしやる、そして强い。』

『フヽ、また先生が、全く自身でも大きに强いつもりで居ます。でも私なんかまだ〳〵駄目でございますね、思想に關した書物なぞ見ると、どれも〳〵御最もなものばかりで、皆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んな感心させられてしまひます。そのくせ或一人の說がどれほど立派なものと思つても、全然受け入れるわけには行かなくつて、是非其中から取捨撰擇を致さねばなりません。』

『それはさうなくちやなりません、讀書はつめこみが目的ではなくつて、啓發にあるんですから。人間は誰しも各自思想の根底は有してゐるのです、それを適當に啓發し、誘導するのは讀書、見聞にあるのです、これによつて始めて、其人自身の思想なり主張なりが確立し發表せられるのです。』

軈て二人は小高い丘の全で石門のやうになつた切通しへさしかゝつた。

『さあ、もう僕の海が近づいて來ましたよ。』

『あゝ先生の海、先生のおすきな海、どんな海なのかしら。』

彼女は今の先から、急に心持が浮き々々して來てゐた。『向ふに見えるあの廣いところが、すつかり海なんですねどら。』爪立ちして言つた。ちよこ〳〵と二三間小走りに行つたが振りかへつて駄々つ娘の樣に大袈裟な態度で詰つた。

『あそこが海なのか知らと思つたら、海なんか一つも見えないじやありませんか。』

『一體如何したと言ふの！　なあに大丈夫よ、今に見えるんだから、ね、いゝ子だから。』

女は枯草の中から、一もとの菫の花を見つけ出した。どこまでも本當の駄々つ娘といふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見えで、突然座り込んで摘み取らうとすると、男はあわてゝ遮つた。

『あゝ待つた〳〵。あなたにも似合はない、折角愛らしく咲きかけたものを、無暗に摘みとらない方がいゝじやありませんか。』

女は素直に手を引いた。そして殆んど無意識的に、うらめし氣な眥に媚を含むで、下から見上げた眼が牧師のそれとかちあつた。

『いゝからおとりなさい、いためないやうにね、どら見せてごらん。』

女は矢場に猿臂を延して、大そうらしく丁寧に根もとの芝をかきわけながら小聲で、

『だつて欲しくつて仕様がないんだもの。』

九

眞晝の日は暖くとも、時ならぬ季節の朝夕の寒さに、怖々と咲いた二輪のひよろ長い菫を摘みとると、Yさんは優しく接吻して牧師に渡した、牧師は何物か懐しい匂でも嗅ぎ出さうとする樣に、眼を閉ぢて唇に觸れた。Yさんは懐から小さな手張を出すと二つに展げて、それに花を受けるとぴつたり閉ぢて、又懐に入れた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

牧師には此數瞬の二人の擧動なり心持なりが、此上なきものの樣に、獨りひそかに滿足だつた。

『俺の結婚生活に入つてから、否それ以前でも、這麼やわらかい溫な趣味はない事た。宿の妻は無暗と俺に狎へつく事と妬くことより外知らない、あの大年増が。年上の女房、……無智な理解のない女……俺は思つても悚とする。』

女ははしやぎ切つて唄つてゐた。

『かすめる野邊のすみれ草、
そよ吹く東風にほころびて
小芝がくれにほゝめば。』

男は益眼をかたく閉ぢて、頭をゆすぶる樣にして紛糾した頭の中から、光明に似た架空的な樂しい想像をたぐり出す事に努めた。

『俺は萬事を犧牲にしなくつちやならない。俺の計畫は成功しつゝあるのだ、此の女は俺を理解して居る。俺の要求の何もかもを知つてゐるだらう。何旣に俺の所有なのだ。ところで今日は何と切り出したものか、用件は旣に定まつてゐるんだから、その手段について商議するばかりなのだ、それに彼女は空恍けて外方ばかり向てゐる、何といふ我儘な、自烈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たい女だ！。』

木々の間から瑠璃色の靜な海が見え出した。女は雀躍して喜んだ。

『あゝ見え出した、見え出した、先生の海が見え出した。』男も遂釣り込まれて、

『ほうらね、小父さんは虚言はつかないでせう？　大きな坊やさん。』

海が展けて來るに從つて男の心持は又懊々して來た、それはその項垂がちな樣子にも明であつた。女は一切見て見ぬ振だつた。蒼い海と白い砂濱を半々にバックにした、悩める男のメランコリックな顏を想像する事が、女にとつては一種の苦痛に似た快感であつた。滑らかな紺碧の海は、心持地球の丸みを思はせる樣な凸面を表して、吹くとも知らぬ微風に、一面に細かい小皺をよせて、渚の方ではかすかなしのび音さへもらして、にたくと笑ふ樣であつた。

女はいつもする樣に男の傍へ歩み寄つて、眤とその眼の中を睜入つて言つた。

『何て形容していゝんだかわからなくなりますね、まるで海に吸ひ込まれる樣よ、あの細つこい小皺の寄つた、薄つ皮を恁う摘みあげたら、一面に奇麗に剝がれさうですわね。』

『さう、その中に一つの世界がありますよ。』女はわざと氣どらぬ風で、

『あの帆前船をごらんなさいましな、まるで私どもに見せるために、海の表面に程よい間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

陽を置いて散ばつてる様じやございませんか、』

『ほんにさうなやうですね。』

『そしてあのお船達は皆んな一體何をしてるんでせう、呑氣相にぽかりんと浮いてばかり居てて、』

『あれで始終働いてるんですよ、今は全速力で進んで居るんです。』

『うそよ、そんなことがあるもんですかよ。』

『じやどうしてるんだつて仰有るんです？　ちつとしてるんだつてんですか、ちつとしてゝ何になります？。』

『ですからさあ、あたしはいつでもお船ほど呑氣なものはないつて、お船を見る度に思ひますのよ。』

『馬鹿な、そら〳〵ごらんなさい、あんなに先刻と位置が變つて來たじやありませんか。』

『おやさう仰有ればさうな様ですわねえ。』

女は是萬事に無頓着で呆然だつた。ことに數學的な數字、記號などに到つては全然超越してゐた。牧師は又言ひ出した。

『ね、Yさん、あの海の中に人の知らない世界がありますよ。』Yさんは又かとばかり、

『フヽ、魚の世界。』

『美しい天國があるといふのです。』メランコリックな眼が眤と凝視した。彼女は聞えぬふりして、外方向いて海面を眺めてゐた。男は仕方なしに、

『あまり自然が偉大だと、非常に人間を憊らすと云ひますね。』

『まあさうでせうか。』

『だから、此位な程度の自然が最もいゝのでせう、例へば太平洋の眞中とか、アルプスの山中とか、あまり偉大な自然の中に入ると、人間はそれに壓倒されて、氣絶するさうです。』

『まあねえ、さう承ればさう想像されまいこともないやうですね。』

女は又例の斑氣が蠢々焦立つて來て、あてつけがましく、

『蘆の浦つて結局これつきりなとこなのね。』

『えゝこれつきり、つまりませんか。』

『えゝ、つまらないわ。』

『じや山へ登りませんか。』

『さうね――と見まわして――山だつてちつともよかありませんわね。』

『じやどうしやうつて言ふの、駄々つ子さん。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『えゝ、じやあ登りませうよ、構はないから。』

『矢つ張り山なんかつまりませんよ、疲れるばかりで、それよか此の先の突岬を向うへ廻らうじやありませんか。何時迄にお歸りにならなきやいけないの?。』

『五時迄よ。』

男は時計を出して見て、直ぐにぱちんと閉めた。もう四時過だつたのだ。獨言の樣に、

『馬鹿に日が短かくつてつらいね。』

『夜が短かくつてつらい事もあつたのよ。』女が言つた。そしてどうせ五時迄に歸らうなどゝは思つて居もしなかつた。男も夫れを知りながら遠慮らしく。

『滊車にしませうか、それともお話しながら歩いて歸りませうか。

『…………………。』

『滊車ならもう三十分お話が出來ます、歩けばもつと。』

『まあどつちでもいゝ事にしませうよ、毎日五時からセニオさんのお稽古がありますけど、今日一度位遲れたつて構やしない。

『さう?、いゝんですか。』

『いゝことよ、その代り夜お稽古してあげるから。それにあたし、此二三日もうすつかり

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お相手がつく／＼可厭になつて來ましたの、あくびを噛み殺しては何度時計を見るか知れませんのよ。』

牧師は殊の外可笑しさうに、

『まあ可憫さうに、そんなに可厭なものをねえ。』

兩側の枯草の長く絡み合つた小徑を分けて二人は堤下の網干場の傍へ降りた。女はちよこ／＼と走り寄つて、番小屋の中を小窓から窺き込んだ。男も傍へ寄つて來て同じく窺き込んだ。女は物珍らしさうに、

『あら／＼、あすこんとこにお竈が出來てる、おやそしてお釜もあるわ、態々とこでご飯を炊いて食べるんですね。』

網干場から汀の砂濱傳ひに行く筈だつたのが、さうは出來なくつて又道上へ上ると、向ふに白い砂濱が見えた。二人は言ひ合したやうに『あすこへ行きませう。』と言つた。

道から砂濱へ下りるのに、可成急な三和土の傾斜が出來てゐた。そこを降りかけた男は、『どうもYさんには、こゝは難しさうだと言ひながら、可危しくすべり落ちさうになつた。

『おゝあぶない！　大きな人がおつこちたりなんかしたら、それこそちつとも可愛らしいとこはなくつて、滑稽なばかりだわ。さあ／＼不精をしないであつちから廻りませうよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二人は廻り道して、草をわけて砂濱へ降りた。其處から向ふの方に、幾棟かの建物が見えた。牧師は女に××試驗所であると說明した。

Yさんは濱の小石を拾つては、汀を狙つて投げた。二度も三度も水の上を跳反つて飛ぶ小石の行衞を興がつて、又しても投げた、牧師も小供らしく一緒になつて投げた。

『あたしの方が、先生より餘程上手ですわね。』

『大きにさうです、木登りがお出來になる位だもの。』

『ほんとですわ、泳ぎだつて隨分上手いものよいつかはこれでも水泳のチャムピオンだつてよ。』

『おそろしい御自慢の女丈夫ですね。』

『さうですとも、先生の樣に弱くつてどうするものですか、あたし時々女流探險家になればよかつたと思ふ事がありますのよ、冐險的の事は大好きだし、それに精神的にだつて肉體的にだつてどんな苦痛や缺亡にだつて堪えるだけの自信は充分に持つてゐますもの。』

『益々鼻息が荒くなつて來ましたね、しかしそれでなくつちやね。』

『冗談じやなくつて、實際なんでございますよ。』

彼女は半ば眞面目彪だつたが、ふと足もとに打上げられた小狗の死骸を見つけて跳び退

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きざま叫んだ、そして、

『何といふおそろしい光景(ありさま)でせう、まだ小供ですね、誰かに捨てられたんですね。可憫さうに。』

それは無殘にもむき出した齒を食ひしばつて臓腑の部分がまるで空虚(うつろ)になつて、黒ずんだ水が溜つて居た。暫く歩むと又女は頓狂な聲を出した、

『先生ほら、又這麼ものが居てよ。』

『何だ、くらげじやありませんか。』

『さうなのよ、』彼女は踞つて指で突つつきにかゝると、男は又周章てゝ遮つた。

『およしなさい、さゝれるといけない。』女はどこまでもいたづら氣に、手捷つこく一寸突つついて大袈裟に手を引込めた。又手出しをしやうとすると、

『およしつてば、いたづらな。』ぐいと肩先を引張つた。女は嵩(かさ)にかゝつて意地汚なく砂を振り撒いたり、棒切を拾つて來てつついたりした。海月(くらげ)は動きもしなかつた。『死んでるのね、螫しやしない。』又いぢりにかゝると、男もやつきとなつた。

『何といふ強情つ張りだらう、いゝ加減におよしなさい。生きてるとも、そして螫されるんだ。』肩先を摑むで引立てた。女はきよとんとした顔付をしてゐた。男の機嫌は癒つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『九州へは何時頃いらしつたんですか。』

問が餘り唐突なので、女は間誤ついた。

『よくご存じですわね、私の九州へ行つたことなんか。』

前に會つた日に自分から九州へ行つたことに就て語つたのは、すつかり忘れて居た。

『え、よく知つてるでせう。』

『誰からおきゝになりましたの、Nさんから?。』

『いゝえ、誰だかから、可成詳しく。』

女が本氣にして頻に考へるので、男は氣の毒になつて、

『此間の日曜日に、あなた御自身から伺つたじやありませんか。』

『あら先生も隨分お人が惡いわねえ、人を吃驚させたりなんかして。』

『そんなに吃驚なさる理由があるんですね。』

『それやありますともさ、えゝと、一昨年の秋だつたと思ひます別に氣になんかなさらなくともよござひますよ、足かけ三年の昔じやありませんか。』

『こつちで言はない前に、先廻りの防衛とは、おそれ入りますね。』

『そんな話はもう止しませうよ、それよりあの邊の海は實に奇麗でございますわね、でも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その島には鼻の無い婦人が隨分多く居ましてよ。』

『敢てあなたの過去の事など追及せやうとは致しません、それで少なくも關門海峽を御渡りになつたんなら、九州は一通りごぞじでせうね。』

『ヘン、いゝ氣になるにも程がある！』と心の中に思ひながら、

『いゝえ、そのくせつひ島以外にどこも見る事が出來ませんでした。急に歸らなくちやならないことになつたものですからね、惜しいことをしたと思つて居ります。』

急に其處から、ごろ〳〵した岩ばかりの場所へさしかゝつた。

『こゝ越されますか。』

『憚り樣、私なら大丈夫でございます。』

二人は各自の思ふまゝに岩から岩へと身輕に傳ひ歩いた。ふと女は這麼事を言つた。

『恁うしてお互に歩いてる處へ、急に、それこそ急に大海嘯がよせて來たら、お互は什麼態度をとるでせう、各自(おたがひ)の生命から〴〵逃げるでせうね。』

『…………………。』

『お互のイゴイスティックな醜態も露裸(あらは)に、逃げまどふ樣が目に見える樣ですね。』

『あなたはそんなにお思ひですか。しかし僕は思ひますね。タイタニック號沈沒の際の消

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

息によつても、少くもそんなものじやないといふことは確められますね。』

女は強く否定する樣に、頭を振つた。

『それはいけません、そんな場合はちがひます。船の沈沒する時などには、人間の赤裸々の醜さを被ふだけの豫裕が充分にあります。』

さうですかねえ、矢つ張り虛榮心を容れるだけの豫裕がありますねえ。』

『それにそんな場合には、虛榮や功名心ばかりでなく人間は得て優しい健氣な心持になれるものだらうと思ひます。それも矢張餘裕があるからですね。私の申すのは一瞬の隙も間もなしに人間本性を殘酷な迄に、さうです殘酷に迄爆露させて見たいといふのでございます。』

『全く殘酷だ、あなたも隨分な意地ん曲りですね。僕にも解らない、今茲に、あなたの假定なさつた天地の大變動が起ればいゝ、そしたら少くも僕といふものゝ立場を明にする事が出來る、僕自身を突とめる事が出來る。』

『有難う、有難う、解りました。私は正直です、正直でおめでたいんでございます。』

彼女の氣まぐれな性質は、時々つひ本氣になつて興奮したり、憤慨したりするのであつた。漸々試驗所に近づいた時、牧師は知人が多く居るからといふので、二人は引返して來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。高く突出た岩の前に來た時、岩の周圍に人一人位宛這入られる樣な橫穴が幾つかあつた。女は身を屈めて其中へもぐり込んで見たりなどした、男は蟹の樣ですねと言つた。そして、

『藤村の蟹の歌御存じですか』などゝ尋ねた。

『いゝえ、どんなの。』

『餘程以前の作で、短かい詩です。その時分では着想が奇拔だつたんです。二匹の蟹が穴から這ひ出て、睦まじく汀に遊んでるところを歌つたものです。すると大浪が來て、浚つて行つてしまふ。それつきりなの。』

『それつきり? ま、おもしろいわね、私達の小供時代、さう兄の中學生時代には新體詩熱が高くつて、猫も杓子も新體詩を作つたものでしたね。蟹の歌も恰度その頃のですね。』

二人は岩の橫道を攀ぢた。男は登りきると振り反つて女の登つて來るのを待つた。女は這麽にして一生懸命に登つて來る自分に、手をかさうともしない男に對して不滿を懷いた。そのくせ男から手をかさうなどゝされゝば拒むくせに。

ふいと背を向けて步き出した男の鼻緖がふつつり斷れた。迷信家でない男は此時ばかり、不思議に可厭な感じに襲はれた。女はそれを知つたが平氣だつた。自暴(やけ)氣味に足袋跣足で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歩かうとする男を引き止めて、女は懐から新しい麻のハンカチーフを出して端を裂かうとした、男は遮つて、それなら僕の古いハンカチーフがあると言つて取り出した。それにはお構なしに一端を歯で喰ひ切ると、バリ〳〵と裂いてしまつた。

『勿體ない事をするんですね、わざ〳〵そんなにしなくつても。』

『餘計な氣前見せをしましたわね、ごめんなさい。』

『あやまられる法はない、僕こそ深く感謝しなければならんのでした。』

男が鼻緒をすげる間、女はちつと立つてその手元を視て居た。男はちらりと女の方を見ると、狡さうな卑肉な笑を浮べて『たとへ草履の鼻緒でもつて言ふじやありませんか。』

『されて心地がアヽよいものか。』

『シッ！　聲が大きい。』

Yさんは此瞬間の男の笑ひ方が野卑だと思つた。這般ことが二三度はあつた。歩きながら男はしきりと一葉を説いた。彼は可成一葉が好きだつた。

『先生は一葉の樣な婦人が御好なんですね。』

『いや僕は何と云つても貴女が一番好きだ、しかし一葉は確かに舊い型の女の權威でしたね。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『若くつて散つたところが華だ』などゝ、女も平凡なことを言つた。此日はあまり話もはづまなく、二人には何となく物足りない感じがした。『打合せしたき事あり云々』などゝ呼出しをかけて置きながら、やがて暮近くもならうと云ふのに、何も言ひ出さない牧師の心持も、女にはよく了解されて居れば、別に打合せなど始めから聞かうとも思つても居なかつた。

『もう歸りませうよ、歩いてね。』

『問題には觸れたくはなし、』かと言つて此儘歸つて僕はどうするつもりなのか。』心焦れを推し隱して寂しく微笑した。女はこれも曖昧に聞き莽つてしまつた。

二人はもと來た松原を拔けて、港や人家を見下す丘の上の突端に佇んだ。何となく空虚な心持でたよりない會話を交した。終ひに、

『あなた焦々していらつしやるんじやなくつて?。』

女が尋ねた。

『いやさうでもありません。が僕は時々さうです、今ももしかしたらさうかも知れません、あなたは?。』

『大層言ひまわしがお上手ですね、私もさうかも知れません、昨年あたりの私の焦々は非

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

常なものでした。此頃でもどうかすると心持が懊々して、こゝんところを毟う――と眉根を寄せて、五本の指でかき挘る眞似をしながら――挘つて捨てちまひたい樣な氣のすることが時々なんでござひますよ。』

男はしげ〴〵と睨視ながら莞爾した。

『××へあなたを訪問しても構ひませんか。』

『いけません、ローリングスさんがやかましいから駄目です。』

『だつて此間、ローリングスさんはよく解つてると仰有つたじやありませんか。』

『それも勿論比較的なことですわ、女敎師などを普の水準に於いて考へたら間違のもとです。』

牧師は額の汗を拭く眞似をした、二人は矢張り何となく物足りない、そして惰氣に充ちた、頽廢的な氣分で夕暮の市街を歩いた。此夕方も家路を急ぐ職工の群に二人はうんざりさせられた。過敏になつた神經の息だわしい焦立たしさに、お互に口も利かなかつた。此日の午後に二人が別々に乘り捨てた、××停留場迄來ると、客を待つてゐた空電車に默つて乘る男の後につゞいて女も乘つた。しばらく他の客を待つたが誰も來ないので、運轉し出した。車掌が切符を切りに來た。女の分は男より一つ先の停留所迄切らせた。時々車掌

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が横目でちらり〳〵二人の方を見た。二人は何時の間にか睦しげに語つて居た。男は惚々する樣に、

『美しい手ですね。』

黄昏の色とうすく點つた電燈の光に照らされた、むつちり太つた女の手が此上なく濃艶(あでやか)に見えた。停留場毎に乘客が殖えた。いつか牧師の下車すべき停留所へ來た。二人はあつけない挨拶を交換して、男は降りた。

Yさんもそこから一區だけ乘つて、いつもの坂を家路に急いだ。ボイドさんの家では皆が晩餐の用意をして、Yさんの歸りを待つて居た。型の如く挨拶やら辯解まぢりに、陽氣な食卓をすますと湯に入つて、夜はセニオさんの復習に二時間ばかりを費した。

今日の一日もYさんの爲には、格別痛烈な刺戟の感じもなしに暮れて、淋しく床に就いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□每號々々意に滿たないものばかり皆樣にお目に懸けなければならないのを本當に殘念に思ひます。先月號はあんなに後れてしまひますし、今月はまた、私のからだが重くて少しも思ふやうに動きませんので每日々々怠けてゐましたので思ふ程の原稿も書けずにこんなうすいものが出來ました。けれども頁の少いことが直ちに價値の如何にかゝはることにはならないと自分ながら苦しい云ひ譯をしてゐます。來月は少し實のある長いものを書く氣でゐます。平塚さんにも野上さん、哥津ちやんにも書いて頂かうと思つてゐます。

□何時からも何時からも氣がついてゐまして一人で私はもがいてゐます苦しくてたまらないのです。このやうな單調な雜誌が出來上るを見る度びに――。私は今年の八月號をやすんで九月の紀念號からすこし變つたものにしたい、もつとひきしまつた、むだのないものにしたいと思つてゐます。種々の計畫もひとりひそかにたてゝゐます。そしてそれには私一人の努力でなく皆樣の努力にまたなければならないのは云ふまでも御座いません。

□一つの些細な事、どんなつまらない原稿でも興味をもつて考へられないことはないと思ひます。どんな單調な生活をしてゐる人でも每日の生活のきまつた事柄の外に何かしら違つたことを聞き、違つたものを見るにちがひはありません。思索と云ふことは何も重大なことばかりを考へるのではないのです。自分の事ばかりを考へるのでもありません。どんな些細なことでもどんな汚いものゝ上にも少しの相違もありません。私は本誌の讀者諸姉がどのやうな日常生活を送りどんな思索を續けてゐられるかを知りたいために、――また私ばかりでなくすべて世間の人々の前に若き現代の婦人たちがその日常生活の眞面目な自己批判を展いて見せることの必ず無意味でないことを思つてこれから每號諸姉の日記、或ひは、小品だとか感想の斷片と云つたやうなものに誌上をさきたいと思ひます。どんなに短かくてもかまひません、ハガキ一枚でもかまひませんから、お氣の向いたときに御寄稿下さい。

□これは小說やその他のものとはちがつてありのまゝの心持を書きさへすればよろしいのですから少しも面倒な事などはないと思ひます。技巧だとか何とかは決して氣になさるには及びません。たゞ書かれたそのことが眞實でさへあるならば立派なものです。これにはおさしつかへの方は匿名でもかまひません。

□此の頃婦人矯風會の決議で見ますと、六年間を期して公唱を全廢すると云ふやうな項目が見えました。私は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この決議をした人たちの心持がどう考へても考へてもわからずにゐます。一體その人たちは本氣で六年間かゝれば全廢することが出來るとの確信があるのでせうか、さうだとすれば實にこんな不明な人達はないと思ひます。私達が一寸考へて見た丈けでもさういふことが出來るといふことはとても出來ないと思ひますのに私のおばさんやお祖母さんと同年輩位のしかも相當に社會の表面に出て事情を知りつくしてゐて、ずつと思慮も經驗も深かるべき人たちが若い私達でさへ冷笑を禁じ得ないやうな不明な間拔けな決議をするにいたつてはとても、あの人たちが今後六年どころか一生を棒にふつたつておつつきはしまいと思ひます。

□一體日本の――外國の人は知りません――婦人は何か始めやうとして自分の方にばかり夢中になつてゐて一向對象の研究をしないやうです。何をやるに對象によつてそのことのれうちがきまるのに、たゞ公娼を止めさすと云ふこと以外に、何にも考へてはゐないやうです。一寸考へた丈けでも何百年と云ふ歴史をもつた、一つの職業として認められて來たものを、そして必要に應じて存在してゐるものを、さう一朝一夕に根こそぎに止めをさすと云ふ事が出來得るであらうかと云ふことを考へて見ますと實にそうした決議が滑稽に思へます。併し私が考へる處では、あの人たちがとても六年間で全廢さすと云ふ確信があるわけではなくたゞさうした熱心さとか意氣込みとかを見せる魂膽かと思はれます。もしさうだとすれば實におどろくの他はありません。さうした不誠實には私は顏を向けるのもいやです。意氣組を見せるつもりならば何故、自分達の一生を賭してとでも云はないのでせう、併し私から見るときはその事業そのものが既でに馬鹿氣て見えます。あの人たちが一生かゝつて或は一代も二代もかゝつて公娼を廢止したとて更に盛んな勢ではびこる私娼をどうするつもりなのだらうと私は思ひます。私娼の流す害毒は公娼のそれにまさるとも決しておとると云ふことはない筈です。それは明かな事實です。あの人たちは、もつと根抵に横はつてゐるものをとりのぞくことをしないでゐるのです。あの人達はたしかに淺薄な自分の名譽心を滿足させさうとあせつてゐる、あの人たちはあの人たちの仕事そのものよりもその仕事のもたらす結果によつて自己の名譽をかち得やうとあせつてゐるのです。あの人たちは少しの結果でも自分のしたとの結果を見なくては承知しない人たちだ。だからあの人たちは六年たつてからきつとかう云ふでせう。「私達は六年間に全廢するつもりで本當に寢食をわすれて運動しました。しかし殘念ながら決議のとほりに出來ませんでした。併

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も、それにはかういふ防害もありました、こんな困難もありました、かうした苦痛もありました。實に一と通りの骨折りではありませんでした。けれども決してそれが何の結果をも齎らさなかつたのではありませんかう云ふ結果がありました。かういふことも。かういふことも」と少さな事も數へ上げるでせう。そうして皆が感激の涙にむせぶのです。そして更に今後五年を期してとか、十年を期してとか云ふことになつてまた同じことを續けてゆきます。忘れつぽい人々は六年前にそんな決議があつたかなかつたかも覺えてゐる人はないでせう。それですべてが事なくはこぶのです。何と云ふ立派な決議でせう。成程滄山の經驗をつんだ思慮ある人たちの世をも人をも理解した作戰計畫には感嘆の外はありません。

□この頃の社のさびしさつたらありませんどなたもお見えになりませんのでポツネンとしてゐます在京の方でおひまの方は少しくお話にお出下さいまし。

□まだ何か書くつもりで居りましたけれどもあんまり他人樣の惡口なんか長々と云つてゐましたので忘れてしまひました。思ひ出しましたら次號で書きます。

□近代思潮叢書の盛況　近代思潮の淵源をなせる有ゆる大文藝家及大思想家さ生活を紹介し出版界の一新記錄を作れる東京牛込區肴五軒町天弦堂の同叢書は第一編「ニイチェ超人の哲學」(生田長江)出版以來江湖の歡迎湧くが如く既に第二編「惡魔主義の思想と文藝」(岩野泡鳴)第三編「個人主義思潮」(相馬御風)第四編「未來派及立體派の藝術」(本村莊八)等を出し空然の好評を拍せるが殊とに最近出版の第六編「タゴール聖者の生活」(吉田絃二郎)の如きは初版再版即日賣切れ新たに第三版を出せるが内容體裁近來得がたき有益なる叢書にして定價一冊五十錢なりと尙引つゞき第七編「ロマンロオランの思想と藝術」(内藤濯)第八編「オイケンと現代思想」(稻毛詛風)第九編「トルストイ人道主義」(加藤一夫)等を出版の由希望者は同書房宛照會すべしと

寄贈書籍

地上生活　田代倫著　非賣品

癡人の懺悔　ストリンドベルヒ著　木村莊太譯　定價一圓六十錢　洛陽堂發行

ストリンドベルヒの自傳の一部で氏の最初の結婚生活を書いたもので御座います。この小說は是非誰にも一讀して欲しいものと思ひます。殊に多くの婦人達に——私は本書の内容についてはあまり多く申しません、譯も極めて叮嚀な隅々まで理解のとゞいた立派なものだと思ひます。並々ならぬ苦心のあとも見えます。譯者も卷末に「この小說は今自分に取つて殆んど理想的な小說である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分はこの譯本を重譯ではあるがその理想的さ加減を略遺憾なく傳へてゐると公言する」と云つてゐられます。

美と女さ　青柳有美著　定價壹圓貳拾錢　實業之世界社發行

先生の序文を拜見しますとこの本には「美術と美學とに關する古今獨歩の識見が披瀝せられてある。文藝に關する突飛卓抜の意見が開陳せられてある。女と性慾とに關する問題が研究せられてある。」さうです。そして「健全で、面白くつて、有益で、安い書籍」ださうです。これは本屋の廣告ではなく、先生御自身の御證明ですから、間違がないことゝ存じます。卷頭には例によつて先生の御肖像があります。身體を七分三分にヒネツタ頗ぶる「卓拔非凡」の御容子です。内容はその「新吉原改良論」より卷末の「脚本白拍子祗王」に至るまで、一々「獨創の識見」に滿ちた御作です。先の「女の話」と並せて讀めば更に澤山な御利益があることゝ存じます。

未來派及立體派の藝術（木村莊八）

一九一〇年、トユランの劇場で三千の公衆を前にして、第一の宣言を行つて以來、未來派は伊太利の一端からその熱烈な主義主張を全世界に提供し、今やその影響はあゆる方面に及んで世界騷壇の一驚異さなつてゐる。著者は先づ本書をかくに當つて、章を未來派立體派の二段に分ち、未來派の章には、かのマリネツチを詳説し未派來の一般的思想さ其反響を述べ、進んで繪畫藝術としての未來派を論じ、その思想及畫論を詳説し、尙立體派の章に於てクルベー、セザンより立體派の現狀に及び、其の派の宣言、主張より、其の立脚せる理論と藝術とを解説、紹介して詳細を極めてゐる。

「その亂棒な主義喧傳策や、誇大な宣言や熱狂せる意想には笑ふべき點があつたに相違ないが、熱烈なる青年詩人に依つて創じめられた此の運動が漸時に擴まり、且つ騷動を引き起さうとする野心や、又は文藝上の驕慢に原因しない活氣を示すに至つた事は、大いに是認しなければならぬ」とモオクレエル氏も云つた如く、兎に角その意味は色々に解せられたやうだが、この重大な意義を有つた近代藝術として獨り繪畫の範圍に限らず、近代のあらゆる藝術及思想に影響してゐる以上、その眞意義及現狀を知る事は、美術に志すのは士は勿論、一般文藝熱愛者にとつて必須の事であらう。卷末の「近代繪畫に就て」の一文は著者の兩主義其他に對する、意見として傾聽に價するものがある、挿入した代表的の繪畫九葉皆トリどりに珍らしいものである。近代思潮叢第四編（定價五十錢天弦堂發行）

タゴール聖者の生活（吉田絃二郎著）

「現代に於て、英語で書かれたものゝ内、彼の抒情詩に匹敵するものを詠んだ人を知らない」と詩人エーツが讃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美したやうに、何人もタゴールの詩の美しさと神秘に深い共鳴を感じないものはあるまい、また彼の幽玄にして偉大なる哲學に驚異し讃嘆しないものはあるまい。けれども、私達は彼の哲學を哲學として受け容れ、詩を詩として受け容れる前、先づ彼の哲學、彼の詩の底を徹して流るゝ一味清新な聖者の信念、聖者の憧憬に味倒して、そこに滿されたる無限の光耀と法悅とを見出す事をわすれてはならない。

著者は先づ彼のプラアマの裡に渾然せる調和純一の交響樂を奏しつゝ、常に未來より未來へ無限より無限へ欣求と憧憬の歩みに光明法悅の世界を築かんとして止まないタゴールの信從、鳩の如き聖者的生活を說き、彼の哲學の一般概念の傾向を叙し併せて、イプセン、トルストイ等近代の反抗的思想と彼の聖徒的なる敬虔な生活思想とを比較、論評して、彼の思想の長短を闡明し、後半「聖者生活の斷片」の章に於て、彼れの哲學中より著者の最も共鳴せる部分を、散文詩的な美しい旋律を以てつゞり、最後にギタンヂャリの詩をも加へて、彼れの聖徒的生活を容易く理解せしめんと努めた。著者が日本に於けるタゴール研究の權威たる事は、今更贅言を要しまい。タゴールの博大な思想と生活に味倒して、彼の所謂廣い個我に眼覺めんとする、眞面目なる讀書家におすゝめする。近代思潮叢書第六編(定價五拾錢天弦堂發行)

寄贈雜誌

早稲田文學　創造　生活と藝術　帝國文學
層雲　俳味　新潮　モザイク
中央公論　婦人の友　勞働者　微光
等

雑誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金弐拾五錢（郵税壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正四年五月三十日印刷納本
大正年六月一日發行

東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地
青鞜社内
編輯兼發行人　伊藤野枝

東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷人　篠田玉三

東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷所　大精社

禁轉載

發行所　東京市小石川區指ヶ谷町九十二　青鞜社　振替東京二一一一六番

發賣所　神田表神保町三番地　東京堂　電話本局四五六一番　振替東京二七〇番

新刊

厨川白村
一宮榮誠 共譯

メリメエ傑作集

四六判全一册
定價 金七拾五錢
郵税 金八錢

十九世紀後半の文學に驚くべき影響を與へた佛國短篇小説の巨匠メリメエの作は實に一種の藝術品て人を魅する話の興味に至つては天下一品といはれ其作を味はぬ人は近代文學を語る資格がないといはれて居る忠實なる此譯書は我國の文藝に新空氣を與へるであらう

廿一版

縮刷

近代文學十講

厨川白村著

四六判 六五〇頁
價 金八拾五錢 郵税 金八錢

▲最近世界文學の縮圖▼

▲新文藝唯一の入門書▼

近年の快著と呼ばれ熱烈なる歡迎を受けたる本書は今や增補訂正を加へ縮刷せられ美本として出づ

新文藝の大勢に通じ現代の思潮を知らむとする士は本書を精讀せざるべからずとは天下の定評なり

東京・京橋・銀座
壹丁目廿二番地

大日本圖書株式會社

郵便振替口座
東京二一九番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■每月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢（郵税壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割增のこと。）
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は每月十日限とす。

大正四年四月廿五日印刷納本
大正年四月一日發行

禁轉載

東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地
青鞜社内
編輯兼發行人 伊藤野枝

東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷人 篠田玉三

東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷所 大精社

發行所 東京市小石川區指ヶ谷町九十二 青鞜社
振替東京 二一一一六番

發賣所 神田表神保町三番地 東京堂
電話本局 四五六一番
振替東京 二七〇番

近代思潮叢書

第一編

生田長江氏著　■好評忽ち再版

ニイチエ 超人の哲學

フリードリッヒ、ニイチエに關する述作の髣髴なる好奇の心より際物として喧傳せらるゝ時代は過ぎぬ。今やいさましく最近思想の本流に掉して汪洋たる自覺の大海に乘り出でむとする新生活の憧憬者等にとりて壯烈なる彼の思想と人格とは最も嚴肅なる最も眞摯なる研究攻窮の題目たらずんばあらず。本書はニイチエの第一の發見者紹介者たるゲオルヂ、ブランデス氏の一八八九年より一九〇九年に至る前後四回の論文に基礎を置き、本邦に於ける隨一のニイチエ學者たる生田長江氏が新たなる洞察と熱情とを以て執筆せられたるもの少くとも、近時思想界の一事件たるを失はざるべし。敢て高級の諸君に一讀をすゝむ。

クロース製美本
菊半截貳百五十頁
定價金五十錢
郵送料金六錢

第二編

岩野泡鳴氏著　■好評忽ち再版

惡魔主義の思想と文藝

平凡卑淺なる思想に沈洵して隨眠を貪りつゝある時、淺皮なる常識、卑俗なる感情、平板なる技巧を蹂躙して、深刻なる勝利の凱歌を奏せんがため『惡魔主義の思想と文藝』は出でたり、而して米にポー、佛にボードレール及びヱルレーヌ、英にスヰンバン及びワイルドを產めるのみならず苟も近代文藝及び思想界の大天才と稱せらるゝもの一人として惡魔主義の洗禮を受けざるはなし。然るに我が文壇及び思想界は依然として舊套を脫せず、平板單調なる傾向を追蹤し文藝及び思想界を卑俗化せんとす。この時に當り、著者二百餘日を費し、心血を絞りて今やこの書成る。我が文壇及び思想界に裨益する處少なからざるべし

クロース製美本
菊半截貳百五十頁
定價金五十錢
郵送料金六錢

■東京市牛込區
■西五軒町卅五番地
天弦堂發行
■振替貯金口座
■東京貳九五五九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年9月30日発行　【第6回配本】

青鞜第5巻　6月号

編著者	平塚　らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印　刷	江明印刷
製　本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

AS PER
L
756
645
v.5
no. 6

50 126CO 184
XL
04/09 30016-160 HFGroup

University of Colorado at Boul[redacted]
[redacted]504 6746539

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第五巻
大正四年六月一日發行（毎月一回一日發行）　第六號

ASN
PL
756
W6
S45
v.5
no.1-6
1915

Digitized by Google

University of Colorado at Boulder
U18304 7799725

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大正四年六月一日發行(毎月一回一日發行) 第六號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

PASCAL
Dep P Mod 2 Ran 04 Sect 11 Shelf 21 Tray 08 Item 002
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER